ライオン誌4月号2009年(平成21年)3月20日発行
昭和33年12月19日付第3種郵便物認可
毎月1回20日発行第51巻第10号

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズスクール・シリーズ

●初級編・ライオンズクラブ入門

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

●中級編・クラブ運営の基礎知識

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

●上級編・リーダーシップを養う

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

※ライオンズスクール・シリーズはいずれも50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引＝100～499部350円／500部以上300円

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号をお忘れなく。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオン誌日本語版出版物　注文書

●ライオンズクラブ入門 …………　部
●クラブ運営の基礎知識 …………　部
●リーダーシップを養う …………　部
●ウィ・サーブ …………　部
●ライオニズムよ永遠に …………　部
●『ライオン』誌創刊号復刻版 …………　部

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒 -		お電話番号

LCIFはライオンズのために、ライオンズはLCIFのために

私たちが視力ファーストⅡキャンペーン（CSFⅡ）で目標の2億ドルを超える資金を集め、ライオンズ最大のこの資金獲得活動を有終の美で飾ったのは、つい最近のことです。これにより、ライオンズと視力ファーストは何百万もの人々の視力を守っていくことが出来ます。従って大いに喜ぶべきである一方、油断してもならないのです。私たちは「栄冠を勝ち取った」とのん気に構え、LCIFはしばらくの間大丈夫と思い込んではいけません。

LCIFは視力保護だけでなく、ライオンズが多種多様な方法で世界中の人々に奉仕するのを支援しています。災害救援を行い、障害者を支援し、青少年が健全に成長出来るよう必要なスキルを提供します。LCIFが引き続き成功を収めていくためには、ライオンズが惜しみない協力を続けることが必要なのです。もちろん、経済不振で大変な時であることは分かっています。けれども、だからこそLCIFに協力し、最も困っている人々を助けなければならないのです。

LCIFは地域社会の隅々にまで援助の手を差し伸べることにより、人々の暮らしを改善し、機会を提供していることを忘れないでください。いつかあなたの町をLCIFが援助するかもしれません。アメリカ・カリフォルニア州で猛威を振るった森林火災、湾岸地帯に発生した壊滅的なハリケーン、そしてインド・ビハール州で発生した大洪水へのLCIFの対応は、記憶に新しいことでしょう。LCIFが青少年奉仕や視力・聴力保護のために拠出する交付金は、小さな町や大都市に住む、何万もの人々に日々影響を及ぼすのです。ニーズのあるところ、LCIFが援助の手を差し伸べるのを、あなたは目にするはずです。

LCIFは効率的かつ効果的に人々に奉仕しています。その人道奉仕の規模と範囲を広げていくことを、皆さんはきっと喜んでくださるでしょう。CSFⅡの成功により、私たちはLCIFの将来を描き直すことが出来ます。私たちはLCIFを更に発展させ、ライオンズへの援助を強化して、より多くの人々に奉仕出来るようにしていくのです。具体的な内容は近日発表される予定ですが、今、確かに言えることは、LCIFがライオンズの奉仕を支えるための一層大きな力になるということです。

LCIFの記事をお読みになれば、LCIFが世界中の苦しんでいる人々やなおざりにされている人々を助け出し、自らの将来を築いていけるようにしていることがお分かり頂けると思います。LCIFは皆さんの活動を支援します。LCIFを頼りにしてください。皆さんはLCIFの力になってくださいますか？

Al Brandel

2008-09年度国際会長
アルバート・F・ブランデル

THE LION MAGAZINE IN JAPAN
April 2009, Vol.51 No.10

We Serve CONTENTS

2009年4月号　表紙
青森県弘前市
弘前城
■詳細はウェブマガジンで
https://www.thelion-mag.jp

THEME 環境問題

無駄を省いたり我慢したり、エコ活動は地味な印象がある。しかし、今やエコに関心を寄せるライフスタイルが「かっこいい」と言われる時代になった。そこで環境技術を駆使しつつデザイン性も高い注目製品をピックアップ。CO_2削減や省資源などエコ活動を実践するライオンズの取り組みもリポートする。

THEME

エコライフ最新事情

ライフスタイルを熱くする、クールエコを体感せよ。

最高時速19キロの電動立ち乗り二輪車セグウェイで館内を巡回（イオンレイクタウン）

今や「節約・我慢＝エコ」ではない

２００８年から、京都議定書のCO_2削減義務の実施がスタート。７月には「環境サミット」と称された洞爺湖サミットも開催され、京都議定書の６％削減の時代から、２０５０年までに半減するという時代に突入した。この合意を「実現不可能」とする声も聞くが、だからといって何もしないわけにはいかない。私たちに出来るエコとは何か――今回は、目新しく画期的で、しかも「クール（かっこいい）」なプロダクツという観点からエコについて考えてみる。

文／砂山幹博　写真／田中勝明

近頃、「エコかっこいい」という言葉を耳にするようになった。

インターネットの検索サイト「GooGle（グーグル）」で検索してみると、出て来る出て来る。約83万件ものヒットがあった。なんでも「エコロジー」と「かっこいい」を合わせた造語で、「環境に良いことを行うその行為をかっこいいと実感すること」という意味らしい。

具体的な例を挙げると、スーパーのレジ袋ではなくエコバッグを携えて買い物をした時、そのバッグのデザインがおしゃれだったら「エコかっこいい」。ガソリン代の節約と排気ガスによる環境への配慮からハイブリッドカーを選ぶと「エコかっこいい」し、更に自転車に乗り換えて、街を颯爽と走る姿も「エコかっこいい」のである。

これまでエコと言うと、節約や我慢といった、どちらかというとチマチマしたイメージが先行した。エコにおける3R（リデュース・リユース・リサイクル）などがその典型で、既存の活動や商品・サービスを削減もしくは低減するという方向性は、これまでネガティブで地味だととらえられることも少なくなかった。

ところが、「エコ＝地味」といった発想そのものが、過去のものとなりつつ

オリンピックプール4面分のソーラーパネルを導入し、昼間に蓄電した電気を夜間照明(自給率100%)として使用している(イオンレイクタウン)

つあるのだ。今や「エコセレブ」なる言葉があるくらい、ハリウッドスターの間でもエコは常識。地球の環境に配慮した考えや行動が出来ているか否かが、セレブたちの価値を決める指針の一つにさえなっている。地球のためにも、自分や家族の健康のためにも環境を意識した行動を選択するという「エコかっこいい」というライフスタイルは今、私たちの周りに広がりつつある。

身近な所から始めるエコのある生活

「エコかっこいい」への第一歩は、まず日々の生活の中に環境を考えた行動を取り入れること。簡単に言えば、普段から環境に優しい物を選んで使うということである。やらされ感で行うのではなく、もっと自主的に楽しむのがポイントだ。

選択肢はそれこそ無数にあるので、やり方や選び方はその人次第。例えば、エコ設備が行き届いたショッピング・センターで買い物をすることだって、立派な「エコかっこいい」行為なのである。

イオン㈱が展開する「エコストア」は、大型ソーラーパネルによる太陽光発電や、利用者がいる時だけ稼動するエスカレーター、節電節水型のトイレといったハード面でCO_2排出量を削減する施策を徹底した商業施設形態である。2008年10月、埼玉県越谷市にオープンした「イオンレイクタウン」もその一つで、環境配慮型の最新施設を備えた設備面もさることながら、環境省が助成する「街区まるごと$CO_2$20%削減事業」に、商業施設として初めて採択された。省エネ技術を導入しない場合の想定年間CO_2排出量約4万5千トンの20%に当たる約9千トンのCO_2削減を見込んだ日本最大規模のエコストアである。

敷地面積は東京ドーム5個分、専門店数が565店舗、モールの全長が1キロメートルを超えるという巨大ショッピング・センターだ。取材で実際に歩いてみたが、とにかく広い。そのスペースを利用して、館内随所にエコを感じさせる展示などがあり、お客さんと共にエコを楽しむコミュニティーを作ろうという姿勢がうかがえる。

また、広さゆえの話題もある。警備やサービスのスタッフは、機動力向上を目的に電動立ち乗り二輪車「セグウェイ」を使って、広い施設の巡回や利用者対応に当たっているのだ。セグウ

エイはガソリンを使わないクリーンエネルギーによる移動手段として、現在、アメリカでは警察を始め民間警備業者など、500以上の団体で導入されている。日本のショッピング・センターでセグウェイが導入されたのはイオンレイクタウンが初めてとあって、セグウェイが通るとカメラ付き携帯で写真を撮るお客さんが後を絶たない。

「環境は人を変える」というが、ショッピングの度にエコを意識するようになれば、そのうち行動が変わっていく。大規模な設備面ばかりに注目が集まりがちだが、多くの人が集まるショッピング・センターには「エコを身近にする」、そんな役割も求められている。

電気自動車の需要に先駆け、国内商業施設初となる電気自動車用高速充電ステーションを屋外に設置（イオンレイクタウン）

エコは楽しくスマートに

カタチから入るエコ活動という手もある。財布との相談になるが、最も身近なアイテムである車なら、とっつきやすいかもしれない。

燃費が良く環境にやさしいという理由でハイブリッドカーが注目されているが、その代名詞がトヨタのプリウス。2003年のアカデミー賞授賞式に参加するハリウッドスターたちが、次々とプリウスでレッドカーペットに乗りつけ、話題を呼んだ。

これがきっかけとなり、ブラッド・ピットやハリソン・フォード、ジャック・ニコルソン、トム・ハンクス、女優陣ではキャメロン・ディアス、ニコール・キッドマン、メグ・ライアンなどなど、多くのハリウッド・セレブが、「世界一環境に優しい車」プリウスを愛用し始めた。「エコかっこいい」ライフスタイルも、この辺りから発信されたと言ってもいいだろう。

そんな中、2009年2月に発売されたホンダ「インサイト（写真）」が市場に与えたインパクトは小さくない。

「『優れた技術は誰もが手に出来てこそ意味がある』というホンダの思想の下に開発されたインサイトは、ハイブリッドカーの本格普及という新しい時代を創る最初の車」

と話すのは開発責任者である㈱本田技術研究所の関康成さん。ハイブリッドカーとしては低価格の189万円を実現、環境性能に優れた車をより多くの方に乗ってほしいという強い思いを感じ取ることが出来る。

値段もさることながら、インサイトには画期的な機能が搭載されている。省燃費運転支援システム「エコアシスト」という燃費運転に役立つ情報をドライバーに提供してくれるシステムだ。単に燃費の数値ではなく、急発進や急加速の抑制といった省燃費運転への取り組みを目で見て分からせるもので、エコ運転を行うドライバーのモチベーション維持にも一役買っている。内蔵されたさまざまなコーチング機能が走行中のドライバーにエコ運転度を知らせてくれるので、まず運転そのものが楽しくなるし、低燃費運転もマスターすることが出来る。

電動サイクル、電動バイクでゴーゴー！

「車はちょっと」という方にお勧めしたいのが自転車。昨年春の原油価格の高騰に加えてメタボリック症候群や環境問題対策にと、自転車人気が高まりつつある。中でも今、エコ自転車として注目されているのが、自ら発電する自転車「エアロアシスタント㈱東部」」である。

通常の電動自転車はペダルを踏み込む力をモーターでアシストする。バッテリーが切れたら家庭用電源からの充電を必要としたが、このエアロアシスタント・シリーズは走行時の余ったエネルギーを利用して、発電・充電が出来る優れものだ。平地では電動でアシスト走行し、下り坂などの惰性走行時の余った力で自動発電し、バッテリーに充電する。1回当たりの充電による走行距離は、現行の電動自転車の約2倍（自社調べ）というから、その効果は侮れない。

また、これまで主婦向けというイメージの強かった電動自転車だが、スタイリッシュなフォルムを実現したエアロアシスタントならば、乗り手の世代や性別、服装を選ばない。この1台で、自転車に乗ることの楽しさを思い出してみてはいかがだろう。

もちろん、どうせならペダルを外し、電力だけで走るバイクの方がいいと考える人もいるだろう。

実はイオンレイクタウンを取材した折、「e-CUBE（イー・キューブ）」というオートバイショップがあった。その店頭で「電動バイク体験レンタル」の文字が目に付いた。

店の人に話を聞くと、レンタル中のものは台湾メーカーの電動バイクで、エンジン排気量50cc以下と同じ第一種原動機付自転車として登録出来るので、原付免許や普通免許があればOKだという。バッテリーは家庭用電源で充電可能、走行コストはガソリンの約6分の1〜10分の1と、かなりのエコ度。ただ、実走距離がフル充電で35キロ程度と、課題もあるようだ。

が、昨年暮れに開催された「エコプロダクツ2008」に東芝が新型2次電池を使用した電気バイクを、ヤマハは燃料電池二輪車を出展、確実に次世代の「エコな乗り物」として開発は進んでいるようだ。イー・キューブの情報では、ヤマハやホンダなど日本の国内メーカーも電動バイクへの参入目前のようで、既に1回のフル充電で東京から京都まで（約500キロ）走行出来るタイプも完成しているという。

いざ、エコかっこいい生活を

所有欲というものはどうも連鎖するようで、何か一つ手に入れると、それに関係するグッズにもつい目が行ってしまうもの。もし自転車を手に入れたとしよう、きっと以下に紹介するグッズなどが気になるはずだ。例えば、遠出する時に携えたい飲み物を入れるマイボトル。1908年にスイスで生まれたシグボトルは、99・5%という純度の高いアルミニウムを継ぎ目なく成形した軽くて丈夫なボトル。シグで行った調査によると、1本のシグボトルの平均的な使用年数は約7年。仮に、これまでペットボトル飲料を当たり前に買っていた人が、マイボトルに切り

替えた場合、実に1千本以上のペットボトルの削減につながり、経済的にも多大な節約になるという。

ショルダーバッグもサイクリングに欠かせないものだろう。「SEAL」ブランドのリサイクルバッグは、大型トラック用の廃タイヤチューブを再利用したユニークな商品だ。水を通さず弾力性があり、しかも過酷な環境を耐え抜く強度も持ち合わせたタイヤチューブは、モバイルケースの素材としては最適だという。

アウトドアやオフィスユースに限らず、エコでかっこいいアイテムは多方面で活躍している。例えば、ビジネスシーンでも家庭でも使えるスマートで便利なエコアイテム「USBエコデン㈲琳聡堂」はパソコンなどのUSBポートがあればどこでも充電が出来る乾電池である。見た目はごく普通の単三乾電池だが、キャップを外すと現れるUSBジャックをポートにさすだけで充電出来るという簡単さがウケている。約5時間でフル充電となり、繰り返し500回の使用が可能。使用済み乾電池をゴミとして出さないばかりではなく、外部充電器を必要としない点で多くのシーンで重宝されている。

再生紙を利用したものでは、オフィス用品になるが、㈱ハイタイドが、無理のないバランスの取れた地球環境に戻ってほしいという願いを込めて立ち上げたブランド「RE_STANDARD」から出ているパルプボックスも面白い。段ボール80％と新聞紙20％を使用した古紙100％のモールデッドパルプボックスは、耐久性は段ボールより高く、何よりも見た目にかっこいい。

生ゴミ乾燥機「エアドライ（リブランコーポレーション㈱）」は、ぜひご家庭で使ってもらいたいエコ製品だ。水分をなくしたゴミを焼却するのと水分のあるゴミを焼却するのでは、使うエネルギーに大きな差が出るもの。そこで、熱で強制的にではなく、風の力だけでゆっくりと生ゴミを乾燥させるのがこのエアドライ。一般的な20ワットの電球とほぼ同じエネルギーで、最大7キロの生ゴミが一晩で乾燥し、約4分の1になるという。10時間稼動させても電気代はわずか4円程度。しかも、別の容器を据えれば、衣類の乾燥やドライハーブ作りなど用途の幅も広がる。

環境問題と言うと多くの人は、地球全体にかかわる大きな課題で、自分一人では何も出来ないと考えてしまいがちである。しかし、今回紹介した製品のように、楽しみながらエコ活動が出来る「エコ・グッズ」は、世の中にまだまだたくさん存在している。

まずは心地よく始められる製品を選んでみて、自分の行動に合った「エコかっこいい」ライフスタイルを実践してみてはいかがだろうか。

キーワードで読み解くエコライフ

最近、目にする機会が多くなってきた環境問題関連用語。その意味や定義を確認し、日々の生活や活動の中で、環境に配慮した選択や行動を心掛けてみよう。

環境家計簿
【かんきょうかけいぼ】

電気、ガス、水道等の使用量やゴミの量などからCO_2排出量を算出し、家計簿のように記録する。日常生活でどれくらいのCO_2を出しているかを知ることで、活動の点検、見直し、CO_2削減につなげていくのが目的。1980年に大阪大学らにより家庭での環境負荷を下げる提案がなされ、これを受けて81年、滋賀県大津生協が琵琶

湖の水質改善を目標に「くらしの点検表」を作成したのが始まりと言われる。現在、環境省や自治体、企業、NPOなどが環境家計簿を提供しており、インターネットで入力出来るものもある。

グリーン・コンシューマー
【Green-Consumer】

直訳すると緑の消費者。環境や健康に配慮した商品を選び、必要なものを必要なだけ、使い捨てではなく長く使えるもの、旬の食材、過剰包装のないものを購入する、など地球環境を考えた消費活動をする人のこと。発端となったのは88年にイギリスで出版された『グリーンコンシューマー・ガイド』。日常購入する商品の製造時、使用時、廃棄後に環境に与える影響を掲載。また、どの商店が環境対策に熱心かを5つ星で評価した。消費者が事業者に影響を与え、環境改善に貢献出来ることを紹介。これが世界各国で新しい市民運動となっていった。

カーボン・フットプリント
【Carbon Footprint】

個人や企業などが活動していく上で排出した二酸化炭素などの温室効果ガスの出所を調べて把握すること。また、商品の製造、流通、廃棄にかかわるCO_2排出量を算定、表示する仕組み。日本では今年2月にサッポロビールが国内初のカーボンフットプリント表示商品を発売した。

ロハス
【LOHAS】

LOHAS＝Lifestyles of Health and Sustainability。健康と持続可能な社会生活を心掛けるライフスタイル。98年に、アメリカの社会学者ポール・レイと心理学者のシェリー・アンダーソンが提唱した新しい生き方を元に開発されたマーケティング・コンセプト。日本では一般的に健康やエコに関連した商品やサービスを総称してロハスと呼ぶ。

都市鉱山
【としこうざん】

都市で廃棄された大量の家電製品などの中に存在する有用な資源（レアメタルなど）を鉱山に見立てたもの。携帯電話やゲーム機等にはレアメタルが鉱石よりも高い割合で、既に精製されて含まれており、それらの埋蔵量から見ると日本は資源大国と言える。アフリカなどの生産国では、金属の違法採掘が紛争の一因となったり、自然を破壊し野生生物の絶滅危機を招いている。国による小型家電のリサイクル整備も進められているが、回収率は高くない。消費者の協力が求められる。

ベロタクシー
【Velo-Taxi】

97年にドイツで開発され、ヨーロッパを中心に世界各都市で運行されている高性能自転車タクシー。ベロはラテン語で自転車の意。日本では02年に京都で最初のベロタクシーが導入され、05年の愛知万博で脚光を浴びた。現在は24都市で走行している。環境に優しい交通システムと、動く広告が一つになった乗物として、環境問題、地域活性化、雇用問題など多方面における改善に寄与する可能性がある。

ペーパーレスにマイ箸、そしてノーカーデー……

全国エコ・ライオンズ巡り

地球温暖化の進行を、多くの人が心配している。そして温暖化を少しでも抑制するため、家庭や企業、また個人レベルで、さまざまな取り組みが行われている。

そんな中、ライオンズとして出来るエコ活動はないか、その方法を模索し、更には実践しているクラブや地区もある。ペーパーレスの推進やマイ箸運動、ノーカーデーなど、工夫を凝らした全国のエコ・ライオンズを紹介する。

マイ箸・携帯電話例会

「これから例会を始めます」

司会を務めるライオン・テーマーの一言を聞いた会員たちは、やおら携帯電話を取り出し、一斉に携帯サイトを閲覧し始めた。むむっ！　何事？

実はこれ、広島シニア ライオンズ（大江洋三会長／22人）では毎例会見られる光景なのである。もちろん、例会を無視して携帯サイトに没頭しているわけではない。

同クラブは携帯サイトを開設し、例会の出欠確認をすると共に、例会次第も掲載してペーパーレスを推進。その徹底ぶりは、あっぱれと言うほかない。

写真上：例会はマイ箸と携帯電話必携。例会次第も携帯サイトで確認し、徹底したペーパーレスを図っている
写真右：クラブのホームページには携帯サイト用のQRコードも掲載。また、マイ箸ブログなど、ネットを上手に活用している

広島シニアライオンズクラブは2006年5月、「1日100円で始めるボランティア活動」をコンセプトに誕生した。当時の加用雅愛地区ガバナーが、アクティビティに特化したクラブ・エクステンションを提案、それに沿った形での結成となった。今も毎回、広島シニアライオンズクラブの例会に顔を出す加用元地区ガバナーは、結成時の様子をこう話す。

「ライオンズクラブはお金持ちの集まりという誤解を、払拭したかったんです。そのため、経費の徹底的な見直しを図りました。また、例会の手法や事業資金の問題、アクティビティの在り方などについて会員候補者と議論を重ねました。それを一つひとつ積み上げたところ、環境に優しいライオンズという今のスタイルになったんです」

その一つが、携帯電話の活用だ。もちろん平均年齢66歳のシニア世代だけに、本格運用までには時間を掛けて準備。携帯電話会社の社員を招き、メールの送受信やサイト閲覧の方法を学んだ。そのかいあって、今では携帯でのネット使用率100％となっている。

また、例会は会場費が掛からない公共施設を借り、食事は500円の弁当。そこから例会にはマイ箸持参、忘れたらファインという独自ルールも生まれた。弁当に付いてくる割り箸は回収し、まとめて返却。更には「広島マイ箸エコ・ポコ会」を結成し、広島市で千人のマイ箸の輪を広げようと活動を展開。マイ箸ブログ（myhashi.sblo.jp）を起ち上げ、広島市民からマイ箸使用時の画像やコメントを投稿してもらっている。

もう一つのエコ活動は古紙回収。もちろんリサイクルを目的としているが、事業資金獲得にもつながる一挙両得のアクティビティ。毎月第2火曜日をリサイクルの日と定め、各家庭の玄関口まで回収に行っており、実は会員のメタボ対策にもなっているらしい。

クラブのサイトを見ながら25周年プロジェクトの打ち合わせをする吉村博文幹事、青木亮二会長、亀井伸生会計、今田恵子IT·PR·会報委員長（左から）

25周年記念 CO_2削減プロジェクト

「CO_2削減でウィ・サーブ！」

クラブのホームページでそう宣言するのは熊本龍峰ライオンズクラブ（青木亮二会長／35人）。

同クラブはこの4月10日、結成25周年を迎える。その記念プロジェクトとして掲げたのが、地球温暖化防止に向けた活動だった。

具体策としてまず目を向けたのは、広島シニア ライオンズクラブ同様、携帯とネットの活用によるペーパーレスの推進。会員がすぐに取り組め、比較的ハードルが低いとの判断からだ。が、ある会員の受信歴を見せてもらったら、すべて「龍峰LC」となっていた。ライオンズのため、CO_2削減のため、不慣れな携帯メールを使うライオンズ魂が見て取れる。

http://337d-lc.com/ryuho/

熊本龍峰ライオンズクラブは結成当初から、市内を流れる白川の浄化に取り組んでおり、環境への意識が高かった。毎年夏には子どもたちと一緒に白川でカヌーに乗ったり、水生生物を観察する「リバーウォッチング大会」を実施している。また白川流域で同じような

活動をする団体に呼び掛け「白川流域リバーネットワーク」を起ち上げるなど、白川を通して地球環境を考える場を提供。こうした活動が認められ、07年には「くまもと・みんなの川と海づくり県民運動賞」を受賞している。

「環境に力を入れていたこともあり、5年前の20周年時も、記念誌の印刷をやめCDにするなど、ペーパーレスに取り組む気運があり、今回は更にそれを進めようということになりました」

と、青木会長。同クラブは08年国際コンテストのウェブサイト部門で佳作を獲得しているが、それを担当したL（ライオン）今田恵子が、専門知識を生かしてクラブのIT化を推進、25周年記念プロジェクトも引っ張っている。具体的には、ユーザー登録型コミュニティー・サイトを手軽に構築出来る「Xoops（ズープス）」というオープンソースのソフトを使い、アクティビティや例会を始めとするクラブの行事を案内したり、出席を受け付けて、ペーパーレスを実現させた。

また、同クラブは温室効果ガス抑制のために日本政府が主導するプロジェクト「チーム・マイナス6％」や、熊本市の活動「エコパートナーくまもと」に登録。会員一人ひとりが環境問題に関心を寄せ、環境を守る行動を実践することを心掛けている。

■330複合地区（東京都、神奈川県、山梨県、埼玉県）

複合地区、地区の年次大会登録や、各種会議の出欠をオンラインで処理

330複合地区及び同複合地区内のA、B、C各地区は今年度から、オンライン報告システムServannA（サバンナ）に新機能を追加し、複合地区、地区の年次大会の登録や各種会議の出欠を管理している。

具体的には、①委員会、各種会議等への出欠、②複合地区及び地区年次大会の代議員登録、③各種イベント（セミナー、賀詞交換会等）への出欠が、サバンナ上で行えるようになっている。つまり、基本的には複合地区やキャビネット主催の行事全般に関して、出欠の登録を行うことが出来る。

これによって、330複合地区では次のようなメリットを挙げている。

①従来はファクスや電話で届いていた出欠の返信を、手間を掛けることなくガバナー協議会やキャビネットで集計が出来るようになった

②委員会開催に際して、委員自身がリアルタイムで委員会全体の出欠状況をオンラインで確認出来るようになった

③通信費を使わずに、出欠登録が可能となった

特に、各複合地区や地区において、ファクスの受信量が圧倒的に減っているのがよく分かるという。

地区年次大会の代議員登録画面。キャビネットの事務効率化にも役立っている

「例えば330-B地区の場合、400人以上の地区役員がいます。各自がキャビネット会議等を含めて年10回、出欠のファクスをするだけで4千枚の紙が必要だったわけですが、それがゼロになりました。また、クラブ数は190程ですから、各種セミナー等の出欠を入れると、更に膨大な量になります」

と、桜井孝一地区ガバナーは話す。

「他にも当地区では、従来ファクスで送信していた文書を100％電子メールに切り替えました。また印刷物として各クラブ、役員あてに配布していたキャビネット会議の報告書も、ホームページからダウンロードしてもらうことでペーパーレス化を図っています」

現在、地区／ライオン誌連動型サバンナの導入地区は28を数え、全地区導入を果たしている複合地区も330、333、334、336、337の5複合地区に上る。IT化による紙の削減には国際協会も積極的に取り組み、ウェブサイトの活用やオンライン報告への切り替えを求めている。省資源が世界的潮流となる中、今後は330複合地区同様、オンライン化によりペーパーレスを目指す複合地区が増えてくるかもしれない。

電力消費量の削減アクティビティについて話し合う高橋吉久会長(右)と清水源太郎幹事／撮影：田中勝明

ノーカーデーの推進と電力消費の抑制

「地球環境を守るため、小さなことからでも、私たち一人ひとりに何が出来るかを考え、クラブとして行動を起こすことが必要ではないでしょうか」

今年度、336‐A地区では山地章靖ガバナーが、環境保全への取り組みを各クラブに呼び掛けた。高知黒潮ライオンズクラブ（高橋吉久会長／71人）はこれを真っ正面から受け止め、年度当初から何が出来るか企画を練ってきた。

最初に考えついたのは「チーム・マイナス6％」で進めていた「1人1日1kg CO_2削減チャレンジ」だった。チャレンジ項目に実施日を書き入れ、毎例会ごとに回収することにした。

が、項目の中には、エアコンや冷蔵庫を省エネタイプに買い換えるとか、太陽光発電、太陽熱利用温水器を新規購入、屋上緑化の導入など、日常生活の中で積み重ねるという趣旨とはかけ離れたものも多く、分かりづらいと不満続出。そこで、項目を見直して、もっと現実的な目標に変えた。

目を付けたのは、チャレンジ項目のうち最も削減量が大きい「月1回のノーカーデー」。チーム・マイナス6％によると、ノーカーデーは、普通乗用車で1リットル当たり2320グラムのCO_2削減につながるとしている。会員にとっては比較的取り組みやすく、かつ効果が大きいというわけだ。現在、排出されているCO_2のうち、20％は自動車から出ているとも言われている。目の付け所としては、確かに的を得た選択だったと言える。

続いて高橋会長は、会員の家庭や事業所で、待機電力の消費量を抑えるため、スイッチ付きコンセントの導入を推奨した。これにより、電力の消費量を5～10％節減出来るという。

また、白熱電球を電球型蛍光灯へ替えることも提唱した。こちらはメーカーにより違いはあるが、消費電力を約5分の1カットし、寿命は約10倍というから大きい。経済産業省も最近、2012年までに白熱電球を廃止する方針を打ち出しており、各メーカーとも順次、製造中止に入っている程だ。

この二つはアクティビティとしても使えると考え、市内の福祉施設や盲学校などでコンセントや電球の取り替えと、エアコンの清掃を計画中。特に電球に関してはメーカーや四国電力にも協力を求め、器材の提供を依頼。エコ活動の広がりにも期待を寄せている。

（取材／鈴木秀晃）

■336-B地区（鳥取県、岡山県）

CO_2削減は身近なところから

今年度、森岡秀行336-B地区ガバナーはキーワードの一つに「環境保全」を掲げている。

今、地球環境は急速に悪化している。二酸化炭素など温室効果ガスの増加による温暖化、大気・水の汚染、動植物絶滅の危惧、砂漠化、乾燥と洪水など、心配の種は尽きない。これらの話題は新聞やテレビで毎日のように報道されており、猛暑日やゲリラ豪雨など、それぞれが実感することもあるはずだ。

地球温暖化対策として、日本は2008～12年のうちに温室効果ガスを1990年を基準として6％削減することを、京都議定書で約束しているが、07年の実績では逆に8％増加。その一因が、家庭からのCO_2排出増加であった。

そこで、地区全体での「地球温暖化ストップ運動」に着手したのである。

まずは、新年度になると早々に勉強会を開催。環境省や全国地球温暖化防止活動推進センターの資料を元に、温暖化の原因、現状及び今後予測される影響について、そしてこれを防止するための取り組みなどを学んだ。一人ひとりのライフスタイルに大きく関係していることと、喫緊の問題であるという意識を高めた。

次に、共通認識を得た上で、地区内98クラブ、3500人の会員が各家庭で、日常生活の中で出来るCO_2削減に取り組んでいく。実施期間は08年8月～09年2月までの7カ月、対象となる温暖化防止対策は6項目。それぞれについて削減出来るCO_2と、換算金額が設定されている。

●冷房は1度高く、暖房は1度低く（1日でCO_2 325グラム削減、14円節約）

●シャワーを1日1分減らす（同203グラム、25円）

●省エネ型蛍光ランプへの交換（54ワット→12ワットで1個当たり／年間47キログラム、2千円）

●1日5分、車のアイドリング・ストップ（1日151グラム、10円）

※蛍光ランプへの変換によるCO2削減は47kgです

●主電源オフやプラグを抜いて待機電力を90％カット（同228グラム、10円）

●レジ袋をもらわない（1枚でCO_2 33グラム）

実施期間終了後、各自は配布されている集計表に日々の努力結果を記入してクラブに提出。クラブは参加人数、CO_2削減量、経済効果の合計を取りまとめゾーン・チェアパーソンへ。最終的に地区全体で集計するのである。

1人が1日に削減出来るCO_2など微々たるもの。そんなことをしても焼け石に水だと思いがちだ。しかし、地区全体で7カ月続けた結果を見た時、塵が積もって出来る山の大きさに驚かされるのではないだろうか。

「身の回りから始められる省エネルギー、誰にでも出来る環境改善があります。一人ひとりの心掛けで、地球は必ずよみがえります。それをライオンズクラブのような大きな組織が音頭を取って取り組み、皆の努力の集大成を可視化することで、成果を実感出来るし継続するための励みになる。変化への波を作り出せると思うのです」と、粟嶋道和地区環境保全委員長。

最終集計はこれから。今後の取り組みに弾みを付ける一歩となるか、結果やいかに⁉

飛騨高山でつながり広がる「エコの輪」のこれから

――高山ライオンズクラブの呼び掛けで設立された飛騨高山エコチェーンネットワークの取り組み

飛騨白川郷の合掌造り集落を守り受け継いできたのは、村人たちの「結」の力だ。「結」の制度は、茅葺き屋根の葺き替えのような大仕事に限らず、農作業や冠婚葬祭など村の生活には欠かせない。お互いに協力し合い、助け合う人と人とのつながり。そんな「結」の精神を今の高山にも感じると話すのは六角裕治さん。飛騨高山エコチェーンネットワーク（以下エコチェーン）の事務局を担当する六角さんは横浜生まれ。高山の地に来て、地域の強い結びつきを実感していると言う。

そうした伝統を持つ高山の地に、昨年9月、新しい形の「結」が誕生した。

今年度50周年を迎えた高山ライオンズクラブ（一木鉄男会長／70人）は、環境問題にかかわる記念事業に取り組みたいと考えた。

「地域には環境問題に取り組む事業体が数多くあって、個々にすばらしい活動を実施しています。それを鎖のようにつなぐことで、情報の共有がなされ、新しい事業展開が生み出されるのではないか。ソフト事業として環境問題に取り組むことを考えました」

事業の中心となったライオン山下喜八郎は その趣旨をこう説明する。ネットワーク設立を記念事業の一つとし、設立資金100万円の支援を決めた。

クラブは行政とも連携しながらネットワーク参加の呼び掛けを行い、これに40の団体・組織が賛同。その一つ、宮川を美しくする会は40年前から町の中心を流れる宮川の美化活動に取り組んでいる、高山の市民運動の草分けだ。年4回の一斉清掃には毎回、流域の市民2千人が参加する。エコチェーンにはこうしたNPOだけでなく、環境問

題に関心を寄せる企業や高校も加わっている。企業の技術や発想とつながることで、ＮＰＯの活動の幅が広がっていくと考え、積極的に参加を求めた。また、近年は教育の場でも、さまざまな形で環境問題への取り組みが進んでいる。地元の工業高校に声を掛けたところ、活動を発表する場や協力してくれる相手を探すのに苦労していた、とたいへん喜ばれたと言う。更に、コンベンション・ホールや会議室など充実した設備を有する飛騨・世界生活文化センターの指定管理者、飛騨コンソーシアムがネットワークの事務局を担当することとなり、活動発表の場としてセンターを活用出来ることになった。

２００８年９月22日、エコチェーンの設立総会が開催されて、会長には宮川を美しくする会会長で、市社会福祉協議会会長も務める西永由典氏が就任。「自然環境に恵まれた飛騨地方をエコの先進地にしたい」と抱負を述べた。

発足の翌10月には、飛騨・世界生活文化センターで毎年開かれている秋の文化・産業フェスティバルに合わせて、ネットワーク発足のお披露目となるイベントを開催。参加団体や企業の展示ブースの他、使用済み天ぷら油を使ったバイオマス燃料による発電や、間伐ヒノキ材を使ったマイ箸作り、エコ素材を利用したイルミネーション作りなどのコーナーを設け、来場者に体験してもらった。

この春にも、同様のイベントの企画が進んでいるが、こうしたイベント型事業は広報活動の一つととらえている。「ＰＲのために必要ですが、イベントを行うことが目的ではありません。ネットワークが目指しているのは、それぞれの活動をより力強く活性化していくことです」（ライオン堀）

「これまで単独で取り組んでいた事業が、横のつながりによってヒントを得たり、一緒に取り組んだりしながら、ネットワークが育っていけばよいと思っています」（西永会長）

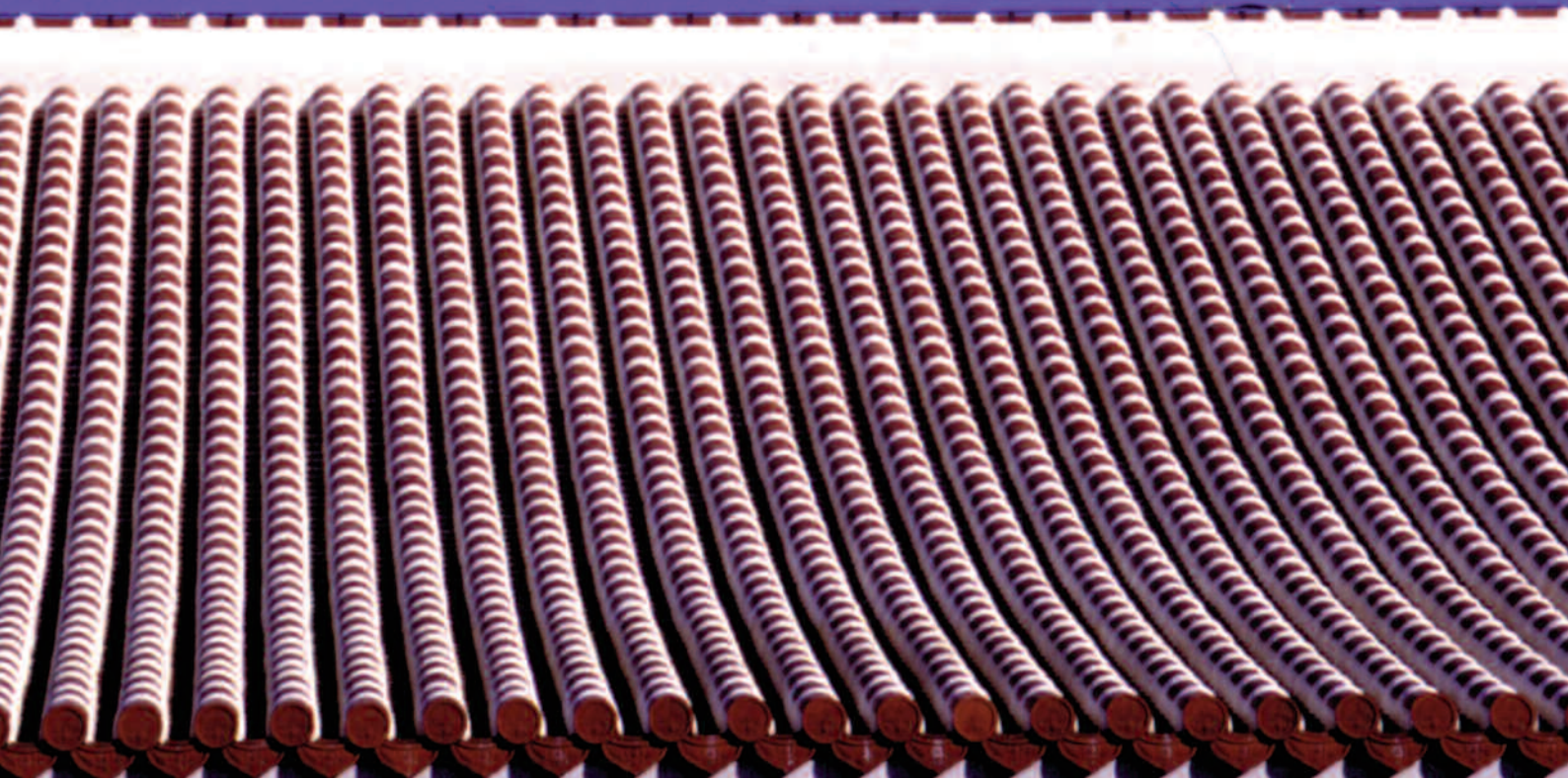
ネットワークを生かした新たな取り組みは、少しずつ動き始めている。

設立総会に集まった参加メンバーの情報交換から、この冬、飛騨・世界生活文化センターのライトアップに一部バイオマス発電を利用する試みが実現した。ライオン堀泰則が経営するひだホテルプラザの使用済み天ぷら油を使い、工業高校の生徒とセンターのスタッフがバイオマス燃料を作り発電。これを利用したライトアップにより、環境問題への関心を高めることにもつながった。

エコ先進地・高山を目指す、今後のネットワークの動きに注目したい。

飛騨高山エコチェーンネットワークのPRイベント。天ぷら油利用の発電を説明したパネルは、イルミネーションの点灯期間中も掲示された。イベントでは自然との共生をテーマに岐阜市の鵜匠山下哲司氏による講演も開催（下写真）

花の大樹に育った沖縄ライオンズの50年

■文／篠﨑淳之介

337‐D地区の沖縄ライオンズクラブが、この4月、結成50年を迎える。日本では108番目のクラブである。

日本にライオンズの灯がともったのは、太平洋戦争が終わってから7年後のことで、沖縄ライオンズクラブの誕生は、それからわずか6年後のことであった。

戦いの日々は既にして、遠い。人々の戦いの日の記憶は薄くなった。しかし、沖縄では、戦時中と戦後の日々が忘れられることなく語り伝えられてきた。沖縄のライオンズはその中から逞しく立ち上がり、50年の月日を刻んできた、そのクラブの友愛あふれる航跡を訪ねてみた。

「海外」へ初のエクステンション

太平洋戦争末期、沖縄戦はすさまじい様相で始まった。1945年3月26日、米軍は慶良間諸島を制圧、4月、猛烈な砲爆撃を開始した。次いで嘉手納に上陸、激烈な侵攻を開始し、人々は仮借ない戦火の嵐にさらされた。

後に、沖縄ライオンズクラブの3代目会長となるライオン竹内和三郎もその嵐の中にいた。4月9日未明、ライオン竹内は、村から逃れて来た一団に出会った。戦火でボロボロの衣服を着た一人の母親が、

裸同然の赤児を抱いていた。

「戦いは、こんな赤ん坊の命まで奪おうとするのか」

無惨であった。

数え切れぬ人々が戦いに巻き込まれた。市民の犠牲は20万人以上とも言われ、犠牲者は両軍の戦死者をはるかに超えた。

「沖縄県民斯ク戦ヘリ。県民ニ対シ後世特別ノ御高配ヲ賜ランコトヲ」

45年6月、沖縄戦最後の日、沖縄根拠地隊司令大田実少将は、最期の電文をこうしたためて自決。2カ月後、太平洋戦争は終結、再び、沖縄の苦難の日々が始まる。沖縄には、多くの基地が置かれ、50年末、連合国総司令部（GHQ）は、北緯30度から南の南西諸島を日本から分離し、「琉球列島米国民政府」を置いた。更に52年4月、サンフランシスコ講和条約が発効、沖縄は日本から分断統治されることが決まる。琉球政府が置かれたものの、実質的には、米軍の支配下にあった。

72年5月、沖縄返還協定が発効、米軍の占領は名目的には解消されたが、その後も、米軍基地の置かれた沖縄の日々は、多難の途をたどった。

そのような戦中から戦後への月日の流れの中で、沖縄にライオンズクラブの話が持ち込まれることとなる。

大阪から沖縄への連携

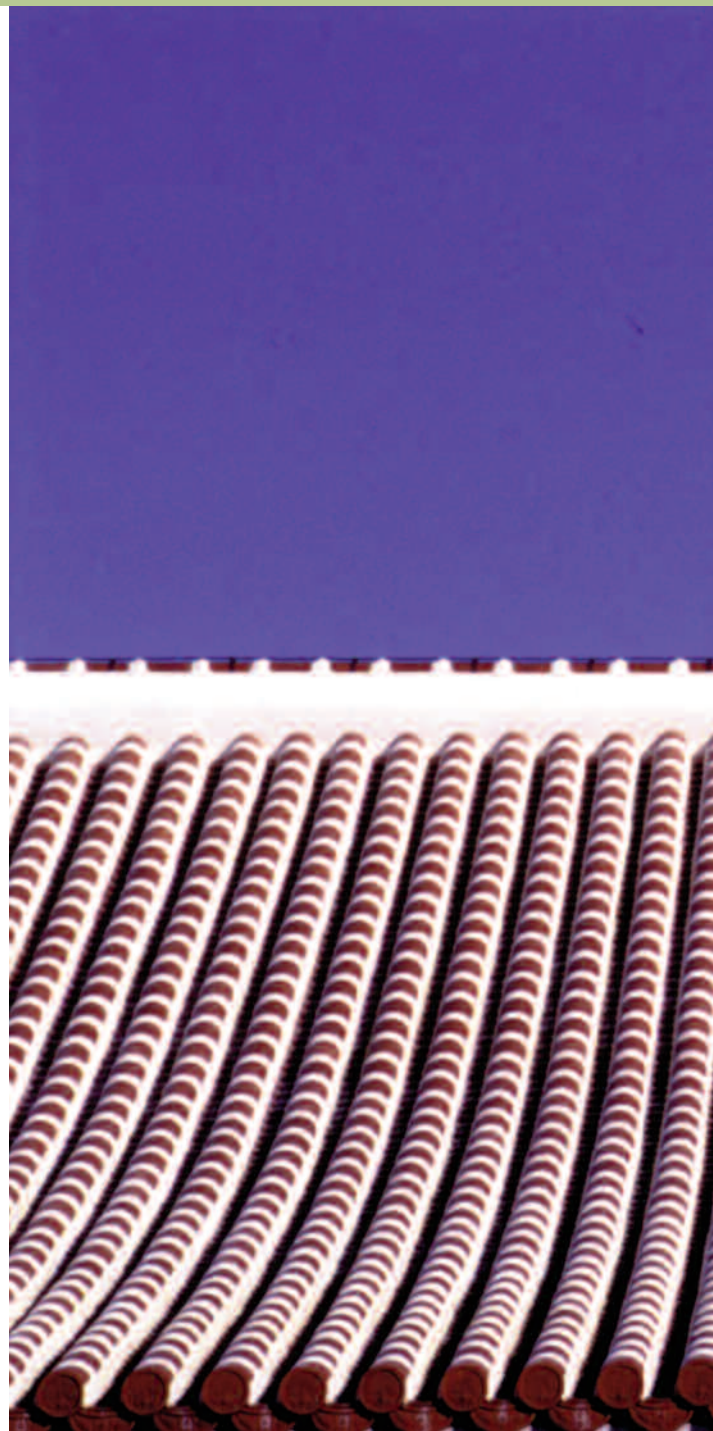
沖縄返還が実現するまで、アメリカ軍政下の沖縄へ渡るには、海外渡航ということで、気ままには往来出来なかったが、米軍発注の業務で沖縄へ渡る人々は多かった。大阪サウスライオンズクラブのライオン山本義樹もそんな人々の中の一人で、米国民政府発注工事のため、沖縄に渡っていた。

1958年冬、沖縄の人々は、当時クラブ幹事を務めていた、そのライオン山本を通して日本のライオンズクラブの存在を知ることとなる。

ライオニズムに触れた人々は、直ちに行動を開始した。何よりも特徴的だったのは、那覇市在住の各国の人々が入会を希望したことであった。チャーター・メンバーの當山堅次元地区ガバナーによると、アメリカ、中国、イギリス、トルコ、カナダ、フィリピンと、まことに国際色豊かな人々が、ライオニズムの理念に共鳴し、67人も集まったという。また、当時は今日のように20数クラブも出来るとは思わず、クラブ名は那覇ライオンズクラブではなく、沖縄ライオンズクラブと決めた。

例会には、通訳2人が出席し、昼食会費もドル建てであった。会員の多彩さを反映して、役員にはアメリカ人らも選ばれた。

例会場もまた同様で、米国民政府の米軍将校クラブのあるハーバービューに決まった。この場所は特別地域（免税地域）に指定され、出入りがチェックされる所だったが、多人数が集まって飲食出来る場所は、他に無かったのである。

初代会長にはライオン稲嶺一郎が選ばれた。ライオン稲嶺は、戦後に結成された沖縄人連盟に参加、GHQ琉球課との折衝に当たり、沖縄の復興に尽力した人として知られていた。沖縄初のライオンズに最もふさわしい人の登場であった。

L字マーク救急車が那覇を走った

初のアクティビティもまた、沖縄の事情を反映して、米軍機墜落事故被災者救援と決まった。この後も地元の状況がアクティビティを決め、各地の台風被災者の救援などが積極的に行われ、奉仕活動にはメンバーの米軍軍人やその家族も参加していく。拠出金はドル建てであった。

翌61年5月、那覇では市制40周年を記念して沖縄初のプロ野球公式戦、東映対西鉄の試合が行われた。球場には日の丸が掲げられ、「君が代」が演奏された。その開催に尽力したのが、結成から2期続けて会長を務めたライオン稲嶺であり、それを継いで第3代会長に就任したライオン竹内和三郎だった。

あの沖縄戦の最中に乳児を救ったライオン竹内は、60・61年度のクラブ会長に就任。沖縄ライオンズクラブは「盲人に光を」運動を起こし、九州大学の協力で12人の開眼手術に成功、これがその後、長く続くアクティビティとなっていく。日本本土でのアイバンク設立に先駆けた活動であった。

当時、沖縄は交通事故多発地域としても知られていた。結成2年目と3年目に、那覇警察署へ救急車が贈呈され、

全国統一アクティビティ「沖縄救ライ」では八重山の社会医療センターや那覇市のスキンクリニック、ライ療養所・愛楽園の研修生宿舎等を建設

2台のL字マークの救急車が救急活動に大活躍し、無医村地区での医療奉仕も始まる。

更に62年秋、東京千代田ライオンズクラブとの連携で、顎の難病に苦しむ那覇の子どもを日本歯科大学に送り、手術を成功に導いた。65年、体の不自由な子どもたちのためのボーイスカウトを結成。71年には、大阪サウスライオンズクラブとの間で青少年交換事業が始まる。78年6月、337複合地区（九州・沖縄）との合同事業として、沖縄戦終焉の地摩文仁の丘に平和の鐘を献納するなど、活動は多彩なものになっていく。

エクステンション相次ぐ

61年12月、日本本土から新潟や静岡のライオンズが、沖縄ライオンズクラブを訪問、初の4クラブ合同交歓会が開かれ、会場に感激の「ライオンズの歌」が響いた。

その歌声の力を示すかのように、沖縄でのライオニズムの輪は、急速に広がっていく。発足2年目、61年の11月、早くもコザにクラブが結成され、当時のパー・ストール国際第1副会長を迎えてチャーター・ナイトが行われた。翌年10月、名護ライオンズクラブが発足、62年から63年にかけては、那覇中央ライオンズクラブ、宜野湾（現・沖縄キーストン）ライオンズクラブ、宜野湾普天間ライオンズクラブが誕生、更にエクステンションは本島を越えていく。

62年2月、石垣島の経済視察団一行にライオン竹内が加わり、島の商工会での懇談の後、ライオンズの結成を呼び掛けて、八重山ライオンズクラブが誕生。このクラブもまた環境美化など地域に密着した活動を展開、米軍の苦情を受けながらも飛行場周辺の植樹など、島の環境美化活動を開始していく。78年の大型台風の襲来時には、被害地に足を運び、被害施設の復旧に全力を傾けた。姉妹提携にも尽力、愛知県・岡崎南ライオンズクラブとの提携を実現させた。

同じ62年の3月、宮古島に宮古ライオンズクラブが誕生。このクラブもまた、大型台風による災害からの復旧、大干ばつ被害への救済など、地元にしっかと足を踏まえて、大活躍していく。

エクステンションは広がり続け、66年には、コザライオンズクラブのエクステンションで糸満ライオンズクラブ（後に解散）が誕生する。

この時期、時代は緩やかに動いていた。68年、沖縄では初めて琉球政府がスタートし、70年、初の国政選挙が行われて、投票率は実に83%を超えた。更に72年5月、待望の施政権が返還さ

れ、沖縄県が発足した。

日本全土のクラブの中から、「沖縄救ライ」の声が上がったのは、このように、沖縄にライオニズムの輪が広がっていたさなかのことであった。

沖縄救ライの声上がる

1966年当時、日本のライオンズは東西14地区に分割されていた。68年、ガバナー協議会で、302・W7地区（沖縄、鹿児島、熊本、宮崎、大分）から「沖縄救ライ」事業が提案され、その年6月に札幌市で開催された全国大会で「沖縄救ライ」が決議される。

この提案の背景になったのは、68年に行われた、宮古、八重山諸島のハンセン病実態調査に関する報道であった。調査結果を伝えた新聞各紙は「新患者170人を超す」と大きく報じた。

当時、沖縄では、ハンセン病に対する戦前からの隔離政策が改められ、在宅のまま、通院して特効薬で治療するという方策がとられて、効果を上げていた。だが、これが、「沖縄ではハンセン病が放置されている」と報じられたのだ。

沖縄のハンセン病患者を救え、という動きが全国に広まる。69年には那覇市に救ライ施設のスキンクリニックが

302W複合地区は沖縄の本土復帰を記念して、「沖縄子供の国（コザ市）」に子どもたちのために水浴施設、ジャブジャブ池を寄贈した

建設され、医療器具も贈られた。沖縄ライオンズクラブもまた、力を合わせ、救ライ事業などに対し約2千ドルを贈った。また、八重山ライオンズクラブの全力をあげての協力で、離島からの患者の宿泊施設も誕生した。

沖縄県に27クラブ誕生

一方、エクステンションの広がりは止むことがなかった。70年代に入ると、石川ライオンズクラブ、浦添ライオンズクラブ、本部ライオンズクラブ（後に解散）、具志川（現・与勝具志川）ライオンズクラブ、嘉手納読谷ライオンズクラブ、那覇守礼ライオンズクラブ、那覇北ライオンズクラブと続々と新クラブが結成され、80年代には西原ライオンズクラブ、沖縄東ライオンズクラブ、那覇若夏ライオンズクラブ（後に解散）、浦添てだこライオンズクラブ、那覇小禄（現・那覇南）ライオンズクラブ、90年代に那覇東ライオンズクラブ（後に解散）、浦添ウエストライオンズクラブ、恩納ライオンズクラブ、沖縄リバティライオンズクラブ、と相次いでライオニズムの灯が掲げられ、2000年代にも、北谷ライオンズクラブ、豊見城ライオンズクラブが誕生。これまでに、沖縄全県で27クラブが生まれている。

この間にも沖縄では大きな出来事が続いた。75年7月、沖縄国際海洋博覧会が開催され、沖縄の各クラブは、身体障害者への車いすの無料提供や介助などの奉仕活動を続けた。沖縄の人々の熱い思いを担った活動であった。87年10月には、第42回国民体育大会が沖縄で開催され、同大会は全国を一巡したことになった。更に2000年7月、第26回サミットが名護市で行われ、アメリカからは、クリントン大統領が訪れた。アメリカ大統領の初の沖縄訪問であった。

一方、沖縄ライオンズクラブの奉仕活動もまた、多彩に展開されていった。全国のアイバンク運動へのかかわり、石嶺児童園への図書贈呈、摩文仁の霊域や健児の塔の清掃など、続々と継続事業が生まれ、更に、YE事業も始まる。92年12月、初のYE生を迎え、翌年、3人の沖縄の学生が海外に向かう。クラブ間の交流も進み、92年には、熊本第一ライオンズクラブとの間で姉妹提携を結び、国内での青少年交流が深まって、奉仕活動は、50年の歳月を刻み、ますます多分野にわたっていった。

思えば、沖縄の50年は、日本の繁栄と苦悩を圧縮した年月でもあった。その中で蒔かれた一粒のライオニズムの種は、50年の時を経て、広く根を張り、337‐D地区の一角を担う大輪の花を咲かせる大樹に育っていたのである。

■国際理事
栢森新治
（愛知県・名古屋ウエスト）

OSEALフォーラム・ステアリング委員会に出席して

2月13～15日、タイ・パタヤで開催された第1回ステアリング委員会会議に出席しました。「それは何の会議か？」と思われる方も多いと思います。これは今年の11月19～22日に開催される第48回東洋・東南アジア・ライオンズ（ＯＳＥＡＬ＝Orient and Southeast Asia Lionsの頭文字）フォーラムの打ち合わせ会議です。

会議ではフォーラムの日程、各国の登録者数、登録料や登録手続き、宿泊施設、会場視察、交通手段など、開催に向けての諸処の準備について説明があり、承認を行います。中でも最も重点が置かれたのは、フォーラム・テーマを決めることです。このフォーラムでは何を目的に、何を話し合うか、ということがとても重要なのです。

日本の多くのライオンの記憶に残っているかと思いますが、第44回仙台フォーラムでは「～RUSH～躍進」がテーマでした。今回は「REFLECTION（熟考）」に決まりました。私は存じ上げなかったのですが、ジェームズ・ケヴィンという人の「効果的な活動はある程度の熟考をもってするものである。また、ある程度の熟考は、更に効果的な活動を生む」といった言葉から採用されたそうです。

フォーラムの意義を考える時、最も大切なことは、何よりＯＳＥＡＬのライオンが多数参加することです。多くの人が集い、それぞれの文化の違いを認め合い、学び、友好を深め、ライオニズムの高揚を図り、ＯＳＥＡＬとして国際協会に向けて議案を提出し、国際役員の推薦などを取り決めるのです。と言っても、年次大会や国際大会とは基本的に異なり、フォーラムは決議機関ではないので、クラブまたは会員への拘束性はありません。

昨年の香港フォーラムでは、今年、ミネアポリス国際大会で選挙が行われる、国際第2副会長と国際理事の推薦が話し合われました。

ここでライオンズクラブの構成をお話ししますと、世界は七つの地域に分けられ、これを会則地域あるいはエリアと呼んでいます。ＯＳＥＡＬは会則地域の一つで、15の複合地区と三つの地区、及び地区未編成国から構成され、18カ国が所属します。

15の複合地区の内訳は、日本に八つ（330～337）、韓国に二つ（334、335）、台湾（300）、フィリピン（301）、タイ（310）に一つずつ、香港とマカオで一つ（303）、それからマレーシア及びシンガポール、ブルネイの複数国で一つ（308）構成されています。単一地区は中国に二つ（380、381）、グアム、ミクロネシア、サイパン、マーシャル諸島で一つ（204）。地区未編成の国がモンゴル、カンボジア、ラオスです。

国際理事は世界から34人が選ばれます。任期は2年で、毎年半数の17人が入れ替わります。理事の人数は会則地域ごとに割当てがあり、ＯＳＥＡＬからは6人です。

ＯＳＥＡＬ内の話し合いで、日本からは4年間で5人の国際理事を選出することが決まっています。日本ではそれを東西に分け、それぞれをローテーションで行っています。

私は今後国際理事を選出する時には、国際会長を選出するくらいの心構えで選ぶべきだと思っています。

名古屋でブランデル国際会長公式訪問

2月22日、愛知県名古屋市のウエスティンナゴヤキャッスルで、ブランデル国際会長の334、335、336、337複合地区（西日本）公式訪問が行われた。当初は昨年9月の東日本公式訪問と前後して行われる予定だったが、国際会長のスケジュール変更により延期されていたもの。

国際会長夫妻は21日午前に中部国際空港に到着。22日午後、公式訪問に先立って開かれた国際会長と西日本の国際理事、元国際理事、協議会議長、地区ガバナー、GMTリーダーとの懇談会で、国際会長は日本の各地区の状況を知りたいと出席者に発言を促し、一つひとつの質疑に丁寧に回答した。

午後5時にスタートした公式訪問には西日本各地から会員約600人が参加。国際会長はスピーチで、ケニアの眼科病院で角膜移植を受けて二人の子どもの顔を初めて見た母親の喜び、最貧国の一つブルキナファソの孤児院の様子など、世界各地を訪問して目にしてきた奉仕の奇跡のストーリーを紹介。これまでにライオンズの奉仕で恩恵を受けた人々になり代わって感謝の言葉を述べ、日本のライオンズがこの55年間で成し遂げてきた実績に誇りを持ってほしいと訴えた。会長はまた、「これまでのライオンズ・ライフで最もやりがいを感じたのはクラブ会長を務めた1年。出来ればもう一度クラブ会長職をやりたい。地域奉仕に最も密接にかかわることが出来るこの職務を楽しんでほしい」と話した。

国際会長は翌23日朝、中部国際空港を出発し、イリノイ州オークブルックの国際本部へ向かった。

第2回ライオンズ全国知事会開催

2月18日、東京・銀座の三笠会館で「第2回日本ライオンズ全国知事会」が開催された。地区ガバナー・メンターを務める山田實紘元国際理事の招集によるもので、地区ガバナー22人と後藤隆一、栢森新治両国際理事が出席した。この会は各地区の成功事例や懸案事項の情報を交換し、活性化を図ることを目的としている。各ガバナーから会員増強の取り組みや活動事例などが発表され、活発な意見交換が行われた。

また、香港から2009・10年度国際第2副会長候補者のウィンクン・タム元国際理事と同候補の支援キャンペーン委員長を務めるポール・ファン元国際理事、タイから第48回東洋・東南アジア・フォーラム組織委員長のソムサクディ・ロヴィス元国際理事がゲスト参加。タム候補者はあいさつの中で日本ライオンズの協会への貢献とリーダーシップに敬意を表すと共に、第2副会長選挙の投票が行われるミネアポリス国際大会での支援、協力を求めた。

2008年度国際平和ポスター・コンテスト最優秀賞発表

「平和は自分から」のテーマの下、世界70カ国35万人の子どもたちが参加した第21回国際平和ポスター・コンテストの最優秀賞が発表された。

受賞者はアメリカ・カリフォルニア州の少女、イ

ライオンズクラブ国際協会 財務状況報告 - 一般資金 2008年6月30日現在（単位：1,000ドル）

資産	
現金及び現金同等物	$ 26,565
受取勘定	436
その他流動資産	2,597
市場性のある有価証券	68,401
不動産及び備品（減価償却後）	8,810
資産合計	$ 106,809
流動負債	
支払勘定	$ 4,654
協会内資金振替分	17,248
未払費用	5,750
未払年金費用	199
その他流動負債	2,096
流動負債合計	$ 29,947
固定負債	
自家保険積立金	$ 8,082
未払年金費用	1,277
年金債務	7,948
その他固定負債	173
固定負債合計	$ 17,480
純資産	
期首残高	$ 59,303
当期利益	4,662
年金債務調整額	(4,583)
期末残高*	$ 59,382
負債及び純資産の合計	$ 106,809

*会則で制限される緊急積立金55,156ドルは含みません。（単位：1,000ドル）

ライオンズクラブ国際協会の監査済み年次財務報告書は、書面にてご要望ください。連絡先は次の通りです。
Eメール: finance@lionsclubs.org
ファクス: 630-571-5368
郵便: 300 W 22nd Street, Oak Brook, IL 60523 U.S.A.

ライオンズクラブ国際協会 収支 - 2008年6月30日までの一般資金（単位：1,000ドル）

収入は、主に投資不振と会費収入の減少により、前年比4,400万ドルの減少となった。この減少分は外国為替差益により一部相殺された。

2007-08年度収入	
国際会費	$ 50,628
入会費及びチャーター費	3,919
大会収入	1,873
投資損失	(439)
その他	3,140
合計	$ 59,121

支出は交通費、宿泊費、DGEセミナー費用などの増加により前年度比330万ドルの増加となった。

2007-08年度支出	
国際大会及び会議	$ 7,150
ライオン誌	8,431
保険	2,364
地区ガバナー及び地区ガバナー･エレクト	8,559
国際役員及び理事会	4,406
クラブ及び地区プログラム支援	18,081
国際本部	5,428
未収会費	40
合計	$ 54,459

エニー・シュウさん（12歳／スポンサー＝ミルピタス・エグゼクティブ ライオンズクラブ）。平和と愛のメッセージをEメールと結びつけ、小さな指が、世界中に大きなメッセージをタイプする様を描いた。シュウさんは、「平和は人々に等しくもたらせるものだと信じています。平和であってこそ人々は調和の中で生きることが出来るのです」と語っている。シュウさんと両親、スポンサー・クラブ会長は3月13日、ニューヨークで開かれる国連ライオンズ・デーでの授賞式に招待され、賞状と賞金2500ドルが授与される。

日本の八複合地区から出品された作品（本誌2月号掲載）のうち、332複合地区の小岩亜美さん（13歳／スポンサー：岩手県・一関中央ライオンズクラブ）が最終審査に残り優秀作24点に入った。

LIONS ON LOCATION 世界で奉仕するライオンズ（『ライオン』誌本部版より）

フランス・パリ

フラワー・パワーでがん撲滅を支援

かつてノルマンディー公国の首都として栄えたルーアンから花の都パリへ、セーヌ川を上ってきた遊覧船マッケンジー号の積み荷は、4万本のチューリップ。フランス北西部にあるファレーズ ライオンズクラブは毎春、「がんと戦うチューリップ」プロジェクトの一環としてチューリップを販売し、益金をグスタフ・ロッシーがん研究所に寄贈している。昨年はプロジェクト20周年を記念して、マッケンジー号の船上をチューリップ畑にしてパリへ運び、注目を集めた。

がん治療と研究を支える資金援助は十分とは言えない。フランスでは1980年から2005年の25年間でがん罹患の割合が倍増したとの報告が発表されている。

ベルギー・ブリュッセル

プールで楽しく資金調達

9時間、8レーンを使ったリレー・レース。スイムマラソンは辛く忍耐を強いられる催しと思われるかもしれないが、そんなことはない。ブリュッセル・ヘラルディック ライオンズクラブによるこの催し、ダンスやマーチングバンドがスイマーを元気づけ、楽しさいっぱいだ。家庭に問題を抱える青少年の福祉施設や、障害を抱える子どもたちの施設で編成された特別チームも参加している。

スイムマラソンの目的は資金調達。スイマーの目標タイムの達成や、障害者の場合には水中にいた時間に応じて、支援者から募金が寄せられる。

この事業は25年前、ライオンビル・コリンズの発案でスタートした。イギリスのライオンズ会員だった彼は、仕事の都合でベルギーに移ったのを機に英語を話す外国人のクラブを結成。イギリスでライオンズが実施していたスイムマラソンを取り入れた。

昨年は80チーム、学校やスイミング・クラブ、教員や看護師、会社員など多彩なチームが参加。集まった募金6万ドルは、ブリュッセル病院の支援や障害児用車両のリフト購入などに活用された。スイムマラソンは開始以来、75万ドルを集めている。

LCIFの新しいロゴ

ライオンズクラブ国際財団（LCIF）のロゴマークが新しくなった。国際協会はライオンズクラブの理解を広め、その業績に対して正しい評価を得られるようにと、ブランド・リニューアル・プロジェクトを進めている。昨年9月に具体的な計画を打ち出して、ライオンズクラブの新ロゴを発表。これに合わせてLCIFのロゴも一新された。

旧ロゴには「LCIF」と略称が用いられていたが、新しいロゴには"Lions Clubs International"の文字が表記されており、ライオンズの関与がより明確に分かるようになった。

リテンションを考えるワークショップ

GMTリーダーが企画し、ライオン誌日本語版委員会が制作に協力したワークショップ「クラブのリテンション（退会防止）を考える」の教材が完成した。このワークショップはグループワークによって問題解決に向けたクラブの行動計画を作成するもの（詳しくは31ページ「GMT通信」参照）で、教材には講師用ガイドブックと参加者用資料が含まれる。GMTリーダーから各地区キャビネットにPDFファイルで配布済み。

アメリカ・インディアナ州の友好作戦へ参加を

25・B地区（アメリカ・インディアナ州）のオペレーション・フレンドシップ委員長、ライオン・パット・エールが、同地区が実施するライオンズ交換事業への応募を呼び掛けている。この事業は、世界中のライオニズムの相互理解を培い、「ウィ・サーブ」のモットーに従って活動する会員、クラブとその奉仕活動について学び合うことが目的で、毎年、海外の会員1～2人を同地区のゲストとして1カ月間招待している（配偶者の同伴も可）。参加者の現地までの往復旅費は本人負担、現地滞在中の宿泊費、旅費は同地区が負担し、滞在中は地元クラブ訪問や視察、観光などが組まれる。実施日程は、2010年3月に開催される同地区年次大会の前後を予定している。英語でのコミュニケーションが可能なことが参加条件。参加希望者は、電話番号、ライオンズとしての奉仕歴を含む参加申込書と顔写真を提出して応募すること。

応募締め切りは2009年10月中の到着分まで。2010年のゲストに選ばれた会員には11月中に告知される。同事業の概要、応募方法については、ライオン誌事務所に照会されたい。

会議録

第3回複合地区YE委員長連絡会議（1月29日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：後藤忍、佐藤和幸、飯塚信一、西村積善、松田毅、松本正福、志岐好春各委員長、渡邊千秋委員長代理）

①夏期交換（Ⓐ派遣生Ⓑ来日生）

第6回ライオン誌日本語版委員会（2月5日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：後藤隆一国際理事、渡邊豊隆、瀧澤嘉門、坂本和彦、坂井正、小岱義正、大島康男、山根健、塩倉安伸各委員、荘英隆、小柴登司両ITアドバイザー）

①2008・09年度ライオン誌日本語版事務所上半期決算報告②2008・09年度ライオン誌日本語版事務所上半期監査報告③ライオン誌日本語版事務所の運営④2月号（11万3300部発行）出来⑤3月号記事内容確認⑥4月号以降台割（案）と主要記事予定⑦ウェブサイト関連⑧その他

新結成クラブ

大阪ゆとり（石橋雄二会長）▼2月5日結成▼スポンサー／大阪梅田中央

茨城県・北茨城桜（松下順一会長）▼2月23日結成▼スポンサー／日立

佐賀県・小城天山（古賀孝信会長）▼2月25日結成▼スポンサー／肥前有田

訃報

■献眼者

2008年12月＝ライオン高野幸助（東京青梅）／ライオン瀬頭貫治（長崎県・諫早）

GMT 通信

334〜337複合地区(西日本)担当
GMTリーダー

高田順一

今年度から3年間にわたって継続的に会員増強に取り組む「グローバル会員増強チーム(GMT)」。複合地区、地区とのチームワークで、会員増強の目標達成をサポートするGMTリーダー2人に、それぞれ隔月で、チームの動向や担当エリアの会員増強の成功事例などを伝えてもらう。

2月22日、愛知県名古屋市において、334〜337複合地区に対するブランデル国際会長の公式訪問がありました。ブランデル国際会長は世界各国で出合ったアクティビティが感動に満ちたものであり、困難な状況から救済された人々の感謝の言葉から日々「奉仕で奇跡を」を実感している、と話されました。大勢の参加者の心に届くスピーチで、有意義な公式訪問であったと思います。

私は公式訪問の前日、複合地区GMT連絡員の皆さんとのミーティングを持ち、今後の進め方を協議致しました。

昨年12月末時点での会員増強、新クラブ結成の状況は、各地区の年度目標に対してたいへん厳しい数字となっています。このまま推移して、例年多くの退会者を出す年度末を迎えることは、何としてでも避けなければなりません。

私は各クラブで全会員が参加して行うワークショップが、退会防止に有効であると思います。これを実行するためにワークショップ「クラブのリテンション(退会防止)を考える」の教材(講師用ガイドブック・参加者用資料)を、ライオン誌日本語版委員会の協力を得て作成し完成致しました。

ぜひこの教材を活用して頂きたいと思います。教材は各キャビネット事務局にお送りしてあります。

このワークショップでは参加者全員が意見を出しやすくするため、1テーブル5、6人のグループとし、まずブレーンストーミングによって退会の原因を洗い出し、クラブの問題点を把握します。次にその問題点を解決する方策を話し合います。そして目標を設定し、いつ、だれが、どうやって行動を起こすのかといった行動計画を作成します。このような3段階で構成されています。グループワークを行うことで意識の共有化が図られ、仲間意識が高まります。自由に意見を話すことでクラブの楽しさを感じることになりますし、行動計画を作成することで実現性が高まります。

2月24日の334-C地区(静岡)MERLセミナーは、第1部が私の講義「GMTの仕組みと運営」、第2部がワークショップ「クラブのリテンション(退会防止)を考える」という構成で開催されました。

参加者は柳原宏行地区ガバナーを始め、地区役員、クラブ会長、第1副会長で、会場の関係で全19テーブル、1テーブル8人として、多くの皆様に体験して頂きました。各テーブルでは、クラブを超えてたいへん熱心に意見が交換されていました。

このようにキャビネットやリジョンでオリエンテーションを兼ねたワークショップを開催し、その体験を基にクラブでワークショップを開いて頂くと、導入しやすいのではないかと思います。これからは次期3役セミナーなどが開催される時節になります。ぜひこの教材を活用して頂きますようお願い致します。

また、家族会員プログラムの現状調査をライオン誌日本語版委員会の協力を得て行いました。この結果も各キャビネット事務局にお送り致しております。関心のあるクラブは地区キャビネットにお問い合わせください。

LCIFファイル

LCIF Annual Report

LCIFにとって記録的な1年

2007-08年度LCIF理事長・元国際会長
ジミー・ロス

昨年はライオンズクラブ国際財団（LCIF）にとって、記録的な年となりました。主に視力ファーストⅡキャンペーン（CSFⅡ）に応えた、ライオンたちの寛大な心を通じて、LCIFは献金額においては新記録を達成し、史上最高額の交付金の拠出を可能にしました。

今回の献金額の合計は7846万ドルに達し、前年より2400万ドル増加しています。LCIFは、重要な人道上のニーズに応じるために、交付金570件、合計金額4093万ドルを交付しました。

『フィナンシャルタイムズ』が国連グローバル・インパクトと共同調査を行ったところ、LCIFは世界の非政府組織の中で、提携すべき団体の第1位に選ばれ、その調査結果が2007年7月に発表されました。

この1年、LCIFにとっては記念すべきことが数多くありました。昨年6月にLCIFの歴史において最大の資金集めであるCSFⅡが成功裏に終わり、勝利を迎えると共に、財団は40周年を迎えました。世界のライオンたちや献金者は最低目標金額である1億5千万ドルを大きく上回るために力を結集し、その結果、2億300万ドルを集めました。これらの基金によって、世界中のライオンたちが、予防可能な失明と闘う名高いプログラム――視力ファーストを継続、そして拡大することが出来るでしょう。

LCIFは、青少年、障害者、保健、自然災害のプログラムを通じて、数多くの人道的なニーズに応えています。LCIFが達成したすべての業績を振り返ってみると、皆さんは私と同じように、今まで共に成し遂げてきた成果について誇りに思うことでしょう。

非常に多くの人々の人生を変えるために、皆さんがLCIFを支援してくださったことに感謝します。私たちが今までこれだけのことを成し遂げてこられたのは、まさに皆さんの変わらぬ支援のおかげなのです。

◆

LCIF概略

- ●大災害援助金：6件／135万ドル
- ●緊急援助金：229件／193万ドル
- ●一般援助交付金：143件／653万ドル
- ●視力ファースト交付金：42件／214万ドル
- ●四大交付金：47件／371万ドル
- ●国際援助交付金：34件／38万9229ドル
- ●その他：69件／589万ドル

カナダ・マニトバ州のポルタージュ・ラ・プレーリーに住むレオナード・ペンナー（66歳）は、ストーブの電気バーナーが点いているかどうか、ようやく目で見て確認することが出来るようになった。

「前は、点いているかどうか分からなかったので、触って確認しなければいけませんでした」

ペンナーは白内障の手術を受け、視力を保護することが出来た。白内障手術に必要な器具は、ＬＣＩＦ交付金と５Ｍ・13地区によって寄付された。

ペンナーは、ＬＣＩＦの援助を受けた何十万人のうちの一人に過ぎない。昨年度、画期的で忙しい1年を迎えたＬＣＩＦは、史上最高額の献金を受け取った。これまでのすべての成果はＣＳＦⅡが大成功に終わり、財団の40周年を過去最高の1年にしたことで絶頂を迎えた。

ＣＳＦⅡで集められた資金は、人々の人生を変えるライオンズの活動を継続するために既に使われている。２億３００万ドルのうち、1億ドル以上は白内障、トラコーマ、オンコセルカ症など、失明の主な原因となる疾病を予防、撲滅するプログラムを支援する。そして5千万ドルは視力低下、緑内障、糖尿病網膜症など、失明の脅威となる眼病を撲滅するためのプロジェクトに充てられる。残りの5千万ドル以上は新しい研究やリハビリテーションを支援し、「すべての人に視力を」を実現するために使われる。

ＣＳＦⅡによる最初の6件の交付金は既に世界のプロジェクトに割り振られている。これらの交付金を通して、ライオンたちはエチオピアでトラコーマと闘い、パラグアイで十分なサービスを受けていない人々にアイケアを提供し、インドでは白内障と闘い、西アフリカでは視力サービスを至る所で提供し、東ヨーロッパでは子どもたちの視力を保護し、そして北アメリカでは矯正されていない屈折障害に対応する。

視力ファースト諮問委員会は現在、視力ファーストの将来を導く長期計画を考えている。これらの計画はアイヘルス・プログラムを見直し、未来のライオンたちがそれぞれの特有の疾病に合った適切な活動が出来るような戦略を提言するものである。

新たな奉仕の展望

ＬＣＩＦは現在、かつてない程の好機を迎えている。ＣＳＦⅡの成功により、我々は視力ファーストを通して、予防可能な失明との闘いにおけるリーダーとしての地位を獲得し、またＬＣＩＦが世界一の財団と認められる素地を作った。今はまさにＬＣＩＦとライオンズにとって、実に刺激的な時期である。

ＬＣＩＦは昨秋、ＣＳＦⅡを成功に導くために雇ったＣＣＳ社に、ＬＣＩＦの包括的な見直しを依頼した。彼らは世界のライオンズから話を聞き、またオンラインによる世論調査を行った。その結果、拡大してほしいプログラムや新しい取り組みについての意見が何千人ものライオンズから提供された。これは、ＬＣＩＦの将来像を決定するのに役立つことだろう。

ＬＣＩＦは皆さんが、この1年を記録的な年にしてくれたことに感謝する。これからもさまざまな記録を塗り替え、世界中の人々の人生を変え続けていくことが出来るように、今後ともＬＣＩＦを支援して頂きたい。

CLUB REPORT クラブ・リポート

●当欄はライオンズ、レオ、ライオネスの活動報告を扱います。投稿は住所、氏名、クラブ名を明記の上、800字程度で。関連写真があれば添付してください

愛知県・幸田ライオンズクラブ

カンボジアに奇跡を

「カンボジアに小学校を建てよう」

この夢を会員数30人に満たない小さなクラブの幸田ライオンズクラブ（山本富夫会長）が持ったのは、今から2年前のことでした。そして去る2月18日、ついにこの夢が実現しました。

世界遺産アンコールワットのあるシエムリアップ市から西に30キロの所にある人口1500人の小さな村トラキエット村。ここに5教室の新しい小学校が完成したのです。私たちがまず考えたのが、LCIF交付金を使っての建設事業でした。

しかし海外に学校を建てるなど経験したことのない大事業に、どこから手を付けて良いか皆目見当がつきません。そこで、カンボジアでのLCIFスタディ・ツアーで視察した小学校を建設された茨城県・下館ライオンズクラブに相談して、建設地を選定し計画。LCIF一般援助交付金を申請し、承認を得て実行に移りました。

いよいよ建設に入る段階でインフレにより資材が高騰し、当初の見積もりより40％も建設費が高くなる大変厳しい状況に見舞われました。しかし、幸田町の小、中学校や普段からアクティビティを通じて交流のあるボーイスカウト、ガールスカウト、そして国際交流協会や商工会が募金活動を展開してくれました。また、334‐A地区第4リジョンの各クラブからさまざまな温かい応援を頂き、事業を成功させることが出来ました。特に下館ライオンズクラブと同クラブの現地代理人である橋辺啓氏には大きな助力を頂きました。

この新しい校舎で学ぶ子どもたちに、今は貧しいカンボジアを豊かな国へと育てる奇跡を起こしてほしい……。ブランデル国際会長の掲げる「奉仕で奇跡を」が起こると、幸田ライオンズクラブのメンバーは信じています。

最後に、この計画に大きな力となっていたライオン清水七郎が志半ばにして他界しました。彼の御霊に完成の報告をしたいと思います。

（元会長／尾山剛）

愛知県・東海ライオンズクラブ

歴史が結ぶ小学生親善交流事業

2月13～15日、東海市の小学生24人が山形県米沢市を訪問し、現地の小学生らと楽しく交流した。

米沢と言えば、江戸時代屈指の名君・上杉鷹山で知られる。一方、東海市は鷹山の師である細井平洲の出生地で、その歴史的な縁から、両市は姉妹都市となっている。実は、この姉妹提携のきっかけを作り、小学生親善訪問事業を支えているのが、東海ライオンズクラブ（早川輝臣会長／108人）である。

1999年、東海ライオンズクラブは歴史的な縁を現代に生かそうと、米沢松岬ライオンズクラブと友好クラブの盟約を締結。そして、こうした市民レベルでの交流が一つの契機となり、翌年、東海市と米沢市の姉妹提携に結びついた。更に2003年、東海市教育委員会が小学生の親善訪問を計画、東海ライオンズクラブは結成30周年記念事業としてこれを支援することを決めた。

以来毎年、東海市内の12小学校から5年生の児童2人ずつが選ばれ、米沢の冬の祭典「雪灯籠祭り」に合わせて訪問団を結成。米沢を訪れた子どもたちは、雪灯籠作りに参加したり、地元の小学生と交流、また上杉博物館を始め、細井平洲と米沢藩にまつわる歴史遺産を見学し、見聞を広めている。

今年、小学生親善訪問団の雪灯籠は上杉神社の入口に作られ、多くの米沢市民が立ち止まり「ああ、東海の子どもたちが来てるんだ」と話し合っていた。それだけ、市民レベルでの交流が浸透している証拠だろう。もちろん、東海ライオンズクラブからも毎年、3役が付き添いで米沢を訪問、ライオンズの交流も深めている。（取材／鈴木秀晃）

東京荒川ライオンズクラブ

「想い出の成人式」を開催

1月18日、東京荒川ライオンズクラブ（稲毛田正勝会長／42人）主催による障害を持つ人たちの成人式が開催された。今年の主役は男性の新成人5人。家族、荒川区障害者就労支援センターの仲間や職員、そしてクラブ・メンバーたちが祝福し、手作りの温かな祝いの会となった。

他の自治体同様、荒川区でも毎年成人の日には区主催の成人式を開催、すべての新成人に招待状を送る。しかし特に知的障害を持つ人は、そうした大きな会に出づらく感じ、欠席してしまうことが多い。20歳を迎えるまでには本人も家族も、健常者以上の努力を重ねてきたのだろうに。だからこそ、この人生の節目が大切な記憶として残るように祝ってあげたい。ライオンズは彼らのための成人式を開くことにした。4年前のことだ。

式では、一人ひとりの子どもの頃からの写真がスライドで映し出される。運動会や家族旅行、トライアスロンへの挑戦など、その時々の思い出をメンバーの巧みなナレーションで紹介していく。新成人からお母さんへの花束贈呈では、「ありがとう」「がんばります」「お母さん、ありがとう」と、緊張した面持ちで、しかし誇らしげにあいさつ。

「必死のうちに過ぎた20年間は長かったような短かったような。こんな成人式を迎えられるなんて夢のようです」。お母さんは目頭を熱くした。やはり障害のある子どもを持つ先輩お母さんが「これからも長いけれど、がんばりましょう」と激励する。

お茶とケーキが振る舞われた。歌も歌った。新成人も家族も仲間もメンバーも、終始誰もがリラックスして心底楽しげに会話し、冗談を言い合っていた。同クラブは毎月複数回に及ぶアクティビティを実施する。障害者福祉が多い。そうした中で築いてきた絆がごく自然な形で、しかし確固として存在する。

最後は利根川昌弘社会福祉委員の言葉で締めくくられた。

「新成人の皆さん、今日共有した心の灯を持ち帰って、それを周囲に向けてください。友達や家族とつながって良い社会を作っていきましょう」

大人として第一歩を踏み出す彼らの背中を、優しく強く押し出す一言だった。

（取材／柳瀬祐子）

栃木県・藤岡ライオンズクラブ

バリ島に楽器やパソコンを寄贈

藤岡ライオンズクラブ（森田信征会長／25人）は2月6～10日、インドネシア・バリ島の中学校を訪問し楽器やパソコンなどを寄贈した。当クラブの「もしもピアノが送れたら」事業の一環で、6年前から実施している。

4回目となる今回は、バリ島中央部のバドウン県キャランサリ村第4中学に鍵盤ハーモニカ22台、パソコン4台、プリンター1台、サッカーとバレーのボール各10個などを寄贈した。鍵盤ハーモニカは、中学校進学をきっかけに不要となったものを地域で募集、提供してもらった。ボールなどの購入に当たっては、資金獲得のためにチャリティー・ボウリング大会を開催した。

農村地帯にある同校を訪れたメンバー8人を、教師や生徒約80人が歓迎してくれた。教室では女性メンバーが折り紙の鶴やかぶとを披露したり、旧日本軍が残した日本語の歌を皆で合唱するなどして交流を深めた。

純真な子どもたちからは、贈り物を届けた我々の方が逆に元気をもらっている。インターネット環境などのインフラが整ったら、藤岡町の中学生とパソコン上で交流出来るといいと思う。税法的な手続きや運賃面をクリアしてピアノを送ることが、クラブの目標の一つである。

（幹事／田沼常宣）

334-C地区第2リジョン第1ゾーン（静岡市）

合同盲導犬育成事業

第2リジョン第1ゾーンを構成する静岡市内の5クラブ（静岡、静岡葵、静岡橘、静岡青葉、静岡芙蓉）は、2008年度の統一テーマとして「目の不自由な方々の生活空間をより広く、より豊かに、より安全に」を掲げている。そこで「共に生き、共に喜ぶ。心と環境の充実に向けて行動しよう！」を合言葉に、資金獲得のための合同アクティビティを実施。12月4日、収益金55万8229円を㈶日本盲導犬協会へ、46万7千円をNPO法人静岡県補助犬センターへ贈呈した。

資金獲得事業の一つに、10月26日に実施したチャリティー・バザーがある。事前にNHKと静岡第一テレビに、開催案内と補助犬の現状とバザーへの支援呼び掛けを放送してもらい、また、新聞や地域の広報などにも案内を掲載した。

こうしたPRの効果もあり、当日は多くの方が来場。メンバーらが持ち寄った2500点の商品は、わずか1時間で完売したのである。

バザー会場では盲導犬のデモンストレーションも行われた。補助犬支援センターの春野登喜男理事長が、盲導犬に出会った際には触らない、見つめない、話しかけない、食べ物を与えない、といった注意点を説明。「犬を街の風景と思って優しく無視してほしい」と呼び掛けた。

その他、チャリティー・ゴルフの開催や街頭募金、募金箱の設置など、資金獲得や啓発活動に努めている。

好きな時に行きたい場所に行けるという健常者にとっては当たり前のことが、障害を持つ人も出来るといい。そのためには盲導犬、聴導犬、介助犬といった補助犬育成の促進が必要なのだ。静岡県は、全国一の勢いで補助犬が増えているという。今後も更に加速、前進出来るよう、私たちも支援を続けていきたい。

（ゾーン・チェアパーソン／寺田亮一）

兵庫県・尼崎琴の浦ライオンズクラブ

1.17鎮魂の祈り

今年もあの日が巡ってきた。阪神淡路大震災から14年目になる1月17日である。

現在、街は復興し、震災の跡を残すものはほとんど見当たらない。だが、被害を受けた人たちの心の傷はまだ癒やされることなく残っている。

神戸市の東遊園地にある慰霊のモニュメントには犠牲者の名札が掲示されているのだが、あの震災を遠因とする物故者の名前は今も増え続けている。

私たち尼崎琴の浦ライオンズクラブ（25人）は、震災を風化させることなく次代へ引き継いでいくべきと考え、毎年、慰霊の祈りを捧げている。昨年は鎮魂の祈りとしての明かりをともし、犠牲者の冥福を祈った。今年はそれに雪を取り入れた。

前日の1月16日、市内の橘公園に、県北部の香美町から12トンの雪を搬入。近くの市立北灘波小学校の児童50人の手によって尼崎市の犠牲者数、49基のミニかまくらが作られた。寒さの中で亡くなった魂を温かいかまくらの中に迎えようという思いからだ。震災を知らずに育った子どもたちは、この日の午後、学校で震災発生時に備えての避難訓練をし、校長先生からお話を聞いて参加してくれた。めったに触れることのない雪に歓声を上げながらバケツに雪を詰め込み、それをひっくり返して形を作り、スプーンでろうそくを入れる大きさの穴を掘って完成。

地震発生12時間前の午後5時46分、それぞれが自分たちの作ったかまくらに火をともした。

真っ白な雪に映えるろうそくの光は美しく、また、もの悲しいものであった。

参加者一同、敬虔な祈りを捧げ、残された者としての誓いを新たにした。

（会長／木下昌広）

徳島藍、兵庫県・神戸のじぎくライオンズクラブ

姉妹提携記念で桜を植樹

11月24日、徳島藍ライオンズクラブ（30人）と神戸のじぎくライオンズクラブ（西尾のり子会長／18人）は、姉妹提携記念植樹を挙行した。7月から特別委員会を設けて話し合いを重ね、念願かなっての提携実現である。

当日は小雨模様のお天気でちょっと心配したが、「雨降って地固まる」の例えもあり、メンバーの熱気と結束があれば問題ない。会場となった徳島市の阿波史跡公園では、東條昭二336‐A地区第9リジョン・チェアパーソンや日下正義徳島市長代理ら来賓の方々においで頂き、両ライオンズクラブのメンバーと総勢44人で、盛大に記念植樹式を行うことが出来た。植えたのは蜂須賀桜8本とヒマラヤ桜2本。

蜂須賀桜はヤマザクラと沖縄系の一代交雑種カンザクラの一種。江戸時代まで徳島城御殿にあったもので、明治初期の廃藩置県に伴い、最後の徳島藩主・蜂須賀茂韶が重臣の原田家当主に託したと言われている。開花は早く、2月中旬から約1カ月にわたって淡い紅色の花を咲かせる。

ヒマラヤ桜はヒマラヤ山脈の標高1100～2300メートルの暖温帯に分布しており、日本には、ネパールの故ビレンドラ国王が日本留学中に熱海市に寄贈した種子から育てられた3本がある。毎年11月下旬から12月にかけて薄ピンク色の見事な花を咲かせ、正月には青々とした若葉が人々の目を楽しませる。最近、二酸化炭素の吸収力がソメイヨシノの3～8倍も優れていることが分かり、環境浄化木として注目されている。

今後、私たち両クラブはお互いの信頼と友情の絆を固め、ライオンズクラブの発展と地域社会への奉仕を目的に、なお一層努力して参ります。

（徳島藍ライオンズクラブ会長／林早苗）

東京都・昭島ライオンズクラブ

天まで揚がれ、たこあげ大会

1月18日、第48回昭島市新春たこあげ大会が行われ、東京昭島ライオンズクラブ（大倉直三会長／19人）が協賛した。こうした地域主催の事業の場合、幾つかの団体による協賛が多いが、この大会は当クラブのみである。

東部、中部、西部、北部の4会場に分かれ、多摩川河川敷の公園などで開催された。河川敷は緑も多く、普段から野球場やサッカー場には子どもや大人、そして水鳥たちも集まる遊び場だ。この日は合計で800人近い小学生が、学校の授業で作ったたこを持ち寄り大会に参加した。

10時から受け付けが始まり、競技は10時30分から11時30分までの約1時間半。その間に審査員が、たこの揚がり具合、仕上がり具合等を審査していく。優秀作品は表彰され賞品も贈られる。

通年は天気が良すぎて風がなく、たこ揚げにはあまりありがたくないことが多いのだが、今年はみぞれ混じりでスタートしたものの、競技が始まる頃には程良い風に変わり、まずまずのコンディションだった。

最近は親子の絆や友達との仲間意識が失われつつあると報道されることもあるが、たこあげ大会では一緒に夢中になることが出来て、そうしたものも深まるように思う。今回もこのアクティビティに参加出来て良かった。

（副幹事／皆川正孝）

石川県・金沢中央ライオンズクラブ

サウンドテーブルテニス大会

金沢中央ライオンズクラブ（67人）は結成40周年を記念して、第17回北信越地区「盲社会人サウンドテーブルテニス石川大会」に協賛した。

大会は10月12日、13日、選手約40人が参加して開催された。

サウンドテーブルテニスは卓球に似た競技で、音を頼りに球を打ち合うゲーム。全員が同じ条件になるようにアイマスクをしてラケットを持ち、「始めます」「はい」と互いに声を掛けスタートする。球は中からかすかな音が出る特殊な作りになっており、この音や球が台に当たる音を頼りにラリーが繰り広げられる。

このゲームに周囲の雑音は厳禁。当クラブのメンバーも選手交代時やトイレへの案内などの誘導を黙々とこなした。また、卓球台からこぼれ落ちた球を拾い審判員に戻すなど、選手同様に汗を流した。個人戦、団体戦の入賞者への賞品も提供し、参加選手や役員の皆さんからとても喜んでもらうことが出来た。

記念事業としてこの他に、金沢市立玉川こども図書館に絵本150冊を寄贈した。11月8日にオープンした同図書館は、日本たばこ産業（JT）の旧金沢支店を改装したもの。現在所蔵している子ども向け図書は約6万冊だが、将来は11万冊に増やす予定である。

記念式典では鍛治多香子会長から山出保金沢市長（金沢ライオンズクラブ）に、絵本の目録が贈呈された。

更に㈶石川ライオンズ奉仕銀行へ金一封も寄贈した。

おかげ様で40周年を迎えられたことを感謝し、これからも奉仕に励んでいきたい。（40周年実行委員／会田迪夫）

山形霞城ライオンズクラブ

留学生に巻きずしの講習会

故国を遠く離れて勉学に励んでいる若い留学生たちに山形の思い出を作ってもらおうと、山形霞城ライオンズクラブ（八尋富雄会長／83人）は毎年、交流会を設けている。今年も1月21日、家族例会として「巻きずしの講習会」を開催。山形県すし組合の役員の方に講師を、アルバニア出身のバロリ・ブレンディ君に特別講師を務めてもらった。現在、山形大学で講師をしているブレンディ君は6年程前の留学生。その頃アルバニア美人と結婚して一児をもうけ、その後も会員と家族ぐるみの付き合いを続けている。彼は日本食文化であるすしに興味を持ち、勉学の合間に会員のすし店で技術を習得したのである。

講習会には、東南アジア、アメリカ、アフリカ、北欧などからの60人の留学生が参加、5グループに分かれての実習となった。使った米は山形県農林部が開発した新品種「山形97号」で、県から試食の委託を受けたもの。学生たちはいろいろと質問をしながらご飯と格闘、会員や家族と一緒ににぎやかにすしを巻きあげた。出来上がったすしはその場で食べたり、仲間へのお土産にしたり。10キロの米もあっという間になくなった。

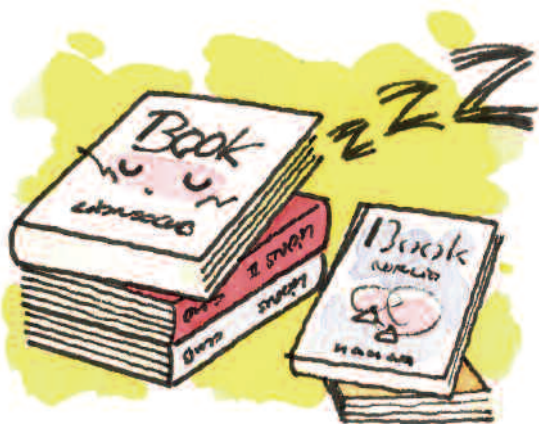
かつての留学生の中には現在も交流のある人もいて、バングラデシュで病院の院長をしているラーマン博士もその一人。今年結成35年を迎えた当クラブは記念事業として、彼の病院の改築基金を贈呈することにしている。

（鈴木雄司）

336-D地区第5リジョン第3ゾーン（山口県防府市）

家庭に眠る本を学校や図書館へ寄贈

防府、防府中央、防府ゴールデン、防府リバティの4クラブは、市内全クラブ共通活動「もったいないキャンペーン」の一環として、家庭に眠っている古本を有効活用しようと、これを収集。集まった図書402冊を防府市教育委員会に寄贈した。

このもったいないキャンペーンは、2004年度ノーベル平和賞受賞者であるケニア出身の女性環境保護活動家ワンガリ・マータイさんが、「もったいない」という日本語に感銘を受けたということから、我々は日本人としてこの誇るべき精神を大切にしていかなくてはならない、と始められたものである。

昨年10月18日に愛情防府フリーマーケットへの出店を第1弾として開催。会員が持ち寄った約500点の品物を販売、収益金は植樹基金に積み立てた。

今回の活動は第2弾。昨年10月20日から12月19日までの2カ月間に古本を収集、防府図書館や市内の小中学校の図書館で活用してもらおうというものだ。

防府図書館で行われた寄付採納式には、各ライオンズクラブの代表者や市教委関係者が参列。集まった古本が並ぶ前でゾーン・チェアパーソンである私が、岡田利雄教育長に目録を手渡した。

防府図書館に収められた402冊の中から、小中学校が希望する本が譲られることになる。（第5リジョン第3ゾーン・ゾーン・チェアパーソン／清水禮伸）

333-C地区第7リジョン第2ゾーン（千葉県）

世界平和デー栗山川ウォーク

1月24日、「世界平和デー栗山川ウォーク1・24」を開催した。塚田雅二333-C地区ガバナーのスローガン「拡げよう　世界平和と　愛ある奉仕」を受けて、栗山川流域で活動する八日市場、総武中央、多古、大栄、栗源、光の6クラブによる初めての共同事業である。

房総半島の北東部を流れる栗山川は、朝鮮半島から渡来した人たちが故国・高句麗を思い、その字を取って句麗山川と名付けたと言われている。川にはサケが遡上し、また今回ゴールとなる河口の木戸浜海岸はウミガメの産卵の地でもある。この命の川に沿って約29キロを歩きながら多くの人たちと接し語り合い、また自然に触れて優しさと思いやりの心を育むことが、平和な世界へつながる道になると考えた。

当日は残念ながら雪交じりの雨と強風の悪天候。にもかかわらず朝7時、約70人が栗山川ふれあいの里公園を出発した。多古町のあじさい広場や横芝光町、光町中央保育園など中継地点からの参加者と合流していった。

びしょぬれの少女たち、少年野球チーム、歩くことが好きな仲間たち、親子三代で参加してくれたファミリー……寒い中を皆で歩いた。中継点では頬を紅くしたメンバーが「ごくろうさま。大丈夫ですか」と笑顔で迎えた。途中保育園では休憩所として暖かい部屋を提供してくださった。

午後2時30分、ゴール地点には250人が集まり、メンバーと家族が豚汁や甘酒、焼き芋でねぎらった。古谷淳実行委員長が力強い平和へのメッセージを発し、最後は全員で太平洋に向かい、世界平和への願いを込めてライオンズ・ローアを吼えた。

悪天候にもかかわらずイベントが成功裏に終了出来たのは、参加者及び関係者の皆様のおかげと、地区内の多くのクラブ・メンバーの友情のたまものと感謝に堪えない。平和の原点である優しさと思いやり、そして逆境に負けない強い心がそこにあった。

（栗源ライオンズクラブ会長／石橋　一男）

宮崎県・日向ライオンズクラブ

定時制高校で薬物乱用防止教室開催

1月21日、日向ライオンズクラブ（吉川順治会長／41人）は、県立富島高校で定時制課程の生徒を対象とした薬物乱用防止教室を開催した。同校には日向レオクラブがあり、一緒に老人施設での奉仕活動をするなどの交流がある。

まず、地域の学校保健衛生の指導に当たっている所轄保健所に協力を仰いだ。今後のためにも我々の活動を理解して頂き、相互の協力関係を構築しておく必要がある。

双方からの申し入れに高校側は快諾。当日は「ダメ。ゼッタイ。」DVDの上映、境田昌江保健所技師と、認定講師である私が講話を行った。田崎登保元地区ガバナーによる総括もあった。DVDは生徒たちに、薬物乱用の恐ろしさを強く印象づけるようだ。薬物について学ぶ機会は絶対に必要なのだ。

私は会社経営の経験から、従業員が突然体調不良を訴え躁鬱の症状を発したものが、青少年時のシンナー遊びに起因していた事例を三つ挙げて説明。境田技師は最近頻発している大麻事件の実例を挙げ、青少年にとって入手がたやすく最も誘惑を受けやすい危険薬物であることを話された。

生徒からは「薬物がここまで恐ろしいものとは思わなかった」「常習性、危険性がよく分かった」など、多くの感想をもらった。薬物乱用防止事業はライオンズクラブの青少年健全育成の基軸として発展させるにふさわしい活動であり、学校側に積極的に働き掛けて講演実績を上げていきたいと思う。

（前年度地区青少年委員長／児玉憲幸）

兵庫県・高砂の松ライオンズクラブ

日本文化の継承、百人一首大会

今年も1月4日、高砂市総合体育館にて「第5回高砂市内小学生・中学生新春百人一首大会」を開催した。日頃の努力の成果を発揮しようという子どもたちと、応援家族ら80数人が集った。中には1時間以上前に到着したり、緊張の面持ちの子も。

開会式では松下典生会長が、ユーモアあふれるあいさつで緊張をほぐし競技をスタート。昨年まではCDを使って札を読んでいたが、今年は初回大会以来お世話になっている中学校の国語の先生に読み手も引き受けて頂いた。そのピーンと張った声が会場に響き、大会を一層盛り上げた。

小学生の部では、米田小学校6年の山本沙紀さん、中学生の部では宝殿中学校1年の長井香菜子さんが優勝を飾った。

近頃の子どもたちは塾やクラブ活動に自由時間の大半を費やしているが、もう少し日本古来の文化に目を向ければ、より豊かな人生を創造する大人になれるのではないだろうか。そう期待を込めたこの企画も5年目。これからも学校長始め多くの方々に協力頂きながら、より充実した大会をと考えている。

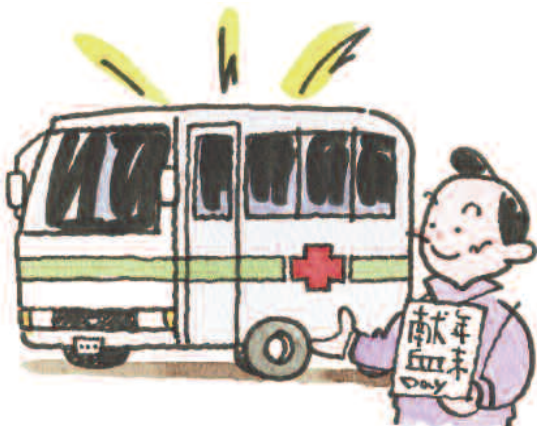
私たち高砂の松ライオンズクラブ（松下典生会長）はメンバー12人と少人数ではあるが、今後も独自性のあるユニークなアクティビティを実施していきたい。

（第3副会長／石野嘉一）

335-B地区第5リジョン（大阪府）

合同年末献血奉仕活動

私は今年度リジョン・チェアパーソンを拝命した。以前から単一クラブで奉仕をするのは限度があると思っていたため、岡野次男、柴田一弘両ゾーン・チェアパーソンに相談。昨年9月、リジョン内15クラブの各会長の同意を得て第5リジョン連絡会を立ち上げた。早速、合同アクティビティとして薬園体験、青少年育成チャリティー音楽演奏会、吹田北公園にホタルを飛ばす等、さまざまな意見が出されたのである。

その中で、豊中ライオンズクラブ提案の合同年末献血奉仕を軌道に乗せようと意見が一致した。年末になると必ず血液が不足する。そこで地域住民に献血の必要性を訴え改善していこうというものだ。各クラブ会員は採血頂ける知人・友人・親族を必ず連れてくることを約束。地区役員はポスターや、粗品の特製タオルの作成、発注と慌ただしい日が続いた。

いよいよ当日の12月27～29日、6カ所に献血車を配置。3日間で600人、総献血量15万ccを目標に掲げた。28日はタレントの大村昆さんも迎える段取りがついた。思いが天に通じたのか、予報をはずして3日間晴天で平均気温を上回る暖かい天気。目標を超える650人に献血して頂き、総量18万1800ccを集めることが出来た。神前昌敏大阪府赤十字血液センター所長から感謝とねぎらいの言葉を頂き、この活動に携わった役員、会員一同感激した。

関係者各位には休日を返上してご協力頂きましたことにお礼申し上げます。

（第5リジョン・チェアパーソン／吉田宏）

東京江戸川東ライオンズクラブ
5年目を迎えた落書き消し事業

東京江戸川東ライオンズクラブ（桐井義則会長／43人）は5年前から、地元葛西警察署と協力して街の落書き消しを

行っている。
　警察署に寄せられる情報を元に、特に目立つ場所などを重点的に消していく。最初の年は立体交差の道路の下のトンネル状スペース。翌年は東西線葛西駅改札正面。その次の年は駅駐輪場に大量に描かれた落書きといった具合で、時には幹線道路の真ん中で交通規制をして実施した。そうした時は警察が交通誘導で協力してくれるので、安心して落書きを消すことが出来る。
　この事業には地元中学生が大勢参加をしてくれる。昨年10月10日には約80人が、荒川河川敷にある大量の落書きを消した。作業としては、落書き消しは中学生たちの仕事、我々は塗料を運んだり、養生マットを敷いたりといった裏方に徹する。落書き消しの指導は塗装会社を経営するライオン岩田勇司。大仕事を終えると、子どもたちは達成感いっぱいのすがすがしい笑顔になる。奇麗になった壁の前で自慢げにポーズをとって記念撮影。顔や体操着についてしまったペンキもがんばった証しだ。
　奇麗になった壁には落書きもなかなか描きづらいようで、続けていけば次第にその数は減っていく。「割れ窓理論」では、落書きの放置は犯罪を起こしやすい環境を作り出すという。ニューヨークの成功例もある。私たちの住む街を奇麗で犯罪のない街にするために、ライオンズの親父たちはこれからも中学生と共に、落書き消しを続けていきたい。
（茅島純一）

滋賀県・大津ライオンズクラブ
わんぱく相撲大会開催

大津ライオンズクラブ（竹内照実会長／38人）は2月11日、滋賀県立武道館で「第10回大津ライオンズクラブ杯争奪わんぱく相撲大会」を開催。小学生男女112人が参加し、熱戦を繰り広げた。
　大津市には県内唯一、相撲の稽古が行われる少年団があり、市内外の小学生5人が週1回練習している。そこで当クラブは子どもたちに対戦の機会を提供しているのである。今回は大津市や市教育委員会、京都新聞、朝日新聞など8組織に後援頂いた。
　大会に参加したのは少年団の他、市内の小学生や交流のある京都府の少年団など。豆力士たちは、1年生～6年生の学年ごとと女子総合の7部門で技と力を競った。
　最も参加者が多かったのは小学4年の部の40人。優勝した山本凉也君は「1年前から相撲を始めて、少年団や神社などでずっと練習してきた。すごくうれしい」と目を輝かせた。
　当クラブでは、子どもたちが日本の国技である相撲を通じて、心身の鍛錬と体力の向上に努めると同時に、土俵上の礼儀を学ぶことで社会に通じる人間性を育んでほしいと思っている。また、互いに切磋琢磨出来る友達をたくさん作ってほしい。これからも子どもたちの健やかな成長を祈って同事業を続けていきたい。
（わんぱく相撲推進委員会）

大阪東淀ライオンズクラブ

デューク更家「健康ウォーキング講座」

現代の日本にはメタボ人間が多い。糖尿病及びその予備軍を含めると、3～5人に1人が該当するという。かく言う私もそうなのだが。

その治療にはウォーキングが最適。そこで当クラブは結成35周年事業として、デューク更家氏を招いて「健康ウォーキング講座」を開催することにした。大阪東淀ライオンズクラブ（33人）の香川和志会長のテーマは「健康・感謝でウィ・サーブ」。また、自治体でも「東淀川区健康づくり区民会議」を設立し、区民が健やかで心豊かに生活出来る活力のある街を目指しており、時宜を得た企画である。

イベントへの参加募集は区報の一面に掲載してもらうことが出来、多くの方に応募頂いた。当日は子どもから80歳代の方まで500人が参加。当区の大学を出られたという更家氏は流暢な大阪弁で話され、皆、親しみを感じながらウォーキングを学んだ、楽しい講座となった。

氏は人間の骨格、筋肉の使い方、呼吸法、足、腰の運び方、鍛え方を説明された。気功の考えを取り入れているように思う。大勢の参加者を二手に分けて交互に歩行実習。最後は、講師の回りに集まった区民からの、腰痛、肩が上がらないなどといった悩みに、時間ぎりぎりまで丁寧に答えてくださった。

日々、正しく歩くことが人間にとっていかに大切か、十分に納得したのである。

（記念事業委員会委員長／灰井正起）

鹿児島県・財部ライオンズクラブ

名物「ナンコ（南交）大会」

財部ライオンズクラブ（24人）には会員相互の結束を図り、チームワークを高めるため、またガバナー公式訪問や特別例会などで他クラブを招く際のもてなしの一環として、必ず行う催しがある。「財部LC名物ナンコ大会」だ。

「ナンコ」って何？　と思われる方が大半だろう。「ナンコ」は「南交」とも書き、南光玉（箸戦玉）と呼ばれる玉を使った酒の席での遊び。旧島津藩が南方との交易が盛んだった頃、取引の際の接待で行ったと言われている。一昔前までは正月や結婚式、上棟式などの慶事の座では、酒宴もにぎやかになってくると「ナンコをすっど（するぞ）！」と始まったものである。

ルールは簡単。拳が置けるくらいの小さめの台を中央に2人が向き合って座り、正面には行司役、横には鹿児島独特のとっくり「カラカラ」とおちょこ。礼を交わしてゲーム開始。持ち玉3本のうちいくつか手の中に握って前に出し、相手と自分の玉の合計数を当てるのである。行司の「練習1本（3本）」の掛け声でまずは手合わせ。その後、じゃんけんで先行を決め、「本勝負！」の声で始め。地域ごとに数の言い方も独特で、1本＝天皇陛下、大統領（2人はいないから）、2本＝ジャン（両棒）、オンジョボ（夫婦）、3本＝下駄ン目、4本＝シンメ（4枚）、5本＝片手、6本＝スッパイ（全部）など。気合い鋭くユーモアたっぷりの数当ての声で場内は熱気に包まれる。当然、負けた方が酒を飲む。ただし女性には紳士的に接するのでご安心を。

さあ、今宵もいよいよ、名物ナンコ大会の始まり～。

結成5周年の懇親会では2㍍の竹の棒を玉に「ジャンボナンコ大会」を開催。さすがに手で隠せないので、紅白幕で仕切りをしての大勝負！　好評を博した。我がクラブにはナンコ歴60年の名誉十段を始め強者がたくさん。ビジターの方にもそう簡単には勝たせない。

あなたもぜひ、おじゃったもんせ！

（会長／山下守）

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）

●投稿要領→56ページ

琉球そして沖縄半世紀の旅

長瀬　正和（神奈川県・横浜Baycity）

年間を通して美しいハイビスカスが咲き乱れ、強烈な南国の太陽の下、紺碧に輝くサンゴ礁の海は訪れる者に忘れられない強い印象を残す。

初めての訪問は1960年。もちろん、まだアメリカ統治下にあり、訪問にはパスポートが必要であった。以来、50数回の訪問の過程で特に強く脳裏に刻み込まれているのは、72年5月12日に正式に日本に返還された大きな喜びと感激の日である。

この時期は朝鮮戦争が集結した後、64年に勃発したベトナム戦争の影響を受けた米軍基地の異常に慌ただしい動きと緊張感のあった時代である。当時私は、明治薬科大学同窓会の充実、当地の開局薬局の新たな組織作りと、それに伴う販売ルート開拓等々のこともあって、頻繁に沖縄に足を運んでいた。

昨年は、沖縄戦終結から63回目にあたる「慰霊の日」に、かつての戦争で犠牲になった方々のご冥福を念ずる思いで沖縄を訪れた。当日の6月23日は沖縄本島南部にある摩文仁の平和祈念公園で追悼式が行われ、福田康夫首相（当時）、仲井眞弘多県知事、河野洋平衆議院議長も参列、23万余りの霊に哀悼の意を表された。

第2次大戦末期には米軍の激しい攻撃により、本島だけではなく周辺の島々でも悽惨な戦闘が繰り広げられ、慶良間列島でも老若男女の痛ましい集団自決があった。

この戦禍の中、45年3月、沖縄県下の中学校の男女生徒が、第32軍の命令を受けて男子は鉄血勤皇隊、女子は従軍看護婦として出陣し、兵隊同様の任務を果たして総勢2361人の半数以上の若き学徒が無念の思いで戦場に散っていった。これらの多くの犠牲者名を刻んだ刻名碑「平和の礎（いしじ）」と若き学徒の霊を祭った「魂魄之塔」「ひめゆりの塔」など、多くの慰霊の塔が建立されている。

更にあまり知られていないが、沖縄戦が始まる前の44年8月22日の深夜に学童約1400人を乗せた学童疎開船・対馬丸が、鹿島沖にて魚雷を受け沈没する悲劇も起こった。

イラスト／小川和政

日本列島でも広島、長崎に原爆が投下され、一瞬にして10万余りの一般市民が甚大な犠牲となった。同じ時期に東京圏内においても、大型爆撃機Ｂ29によって連日連夜の大空襲が行われ、我が家も灰燼に帰した。艦載機のＰ51による低空での銃撃にあったことも忌まわしい記憶である。

日本軍の要衝であった沖縄がなかったら本土決戦は避けられなかったかと考えると、那覇市の90％が焼失したこの悲惨な地上戦は代受苦とも受け止められ、心痛む思いでもある。

戦後のアメリカ統治下における沖縄出入国にはその度に煩わしいパスポートを要したり、通関に際しても面倒な手続きが多かった。そしていまだに米軍基地の影響を受け、多くの負担を強いられている県民の現況を案ぜずにはいられない。

現在の沖縄は本島、離島共に設備の整った観光リゾート地となり、近代的なホテルも多い。また琉球王国の歴史的文化遺産はすばらしく、鮮やかな朱色の美しい首里正殿を始め、世界最大級の水槽を持つ美ら海水族館もあり、観光立県としての大きな発展を遂げつつある。

特に2000年に部瀬名岬にて開催された沖縄サミットにより、南国の美ら島沖縄の知名度を世界に広めた。これは当時の小渕恵三首相の思いにより基礎が築かれた。惜しくもサミット開催直前に急逝されたが、この功績を顕彰して眺望のよい国際会議場の万国津梁館前に立派な小渕首相の座像が建立されて沖縄の発展を見守っている。

沖縄は東アジアの中心であり、香港、バンコクなど南の主要都市とも近く、ハブ空港として強化されれば、国際物流の重要拠点ともなり、沖縄経済の発展に大きく貢献するものと信じる。

戦後生まれの人口が大半を占める今、戦争のむなしさを正確に理解するのは困難かもしれないが、魔除けのシーサーは平和のシンボルの意もあるので、平和と不戦の誓いを後世に伝えていきたい。そのためにも次回訪問の折には、沖縄ライオンズクラブとの交流も図り、仲間と共に「ウィ・サーブ」の声を上げ叫びたいと考えている。

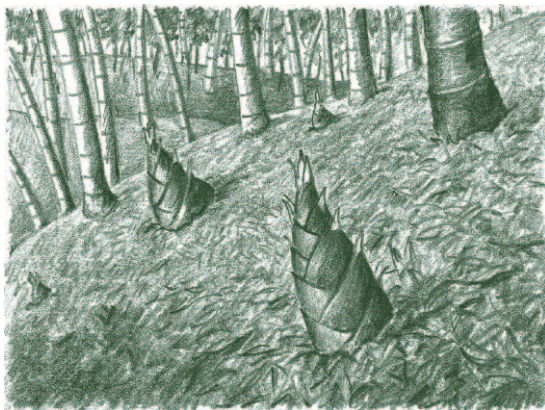
若人よ、生涯のパートナーを見つけよう

加川　明（秋田港）

秋田県は全国で最も少子高齢化が進んでいます。我が秋田港ライオンズクラブの例会場があります秋田市土崎はその昔、北前船が寄港した港町であり、国鉄の工場があり、40年近く前には日本一の製錬工場や製紙工場が進出し、活気にあふれた地域でした。

が、バブルが崩壊し、不景気の波が押し寄せて来た辺りから、若者や子どもが急激に減少してきました。学校を卒業しても地元での職場が少ない。異性との出会いの機会がない。今の社会情勢を見ると、将来が不安になり独身の方が楽。また仮に結婚しても、養育費や教育費が高すぎて子どもを多く産める環境にないなど、いろいろ理由はあるようです。が、これでいいはずがありません。

今期の村田純治会長は産婦人科医でもあることから、秋田県の少子化を随分危惧されており、以前から「秋田県を何とかしねば」との思いを強く持っていました。そのため自分が会長に就任した時は、アクティビティとして少子化対策に取り組めないか、ずっと考えておられました。

そんな時、本誌2007年10月号の「獅子吼」で、富山県・となみセントラルライオンズクラブのライオン横山征四郎が投稿された

「若者たちに出会いの場を」を読み、「これだ！」と強く感じたのでした。
　早速、となみセントラル ライオンズクラブに連絡し、直接お話を伺いたい旨を伝えると、快くお引き受けくださり、私たちは昨年3月12日に富山へ向かいました。当日は空港までお迎えに来てくださり、例会にも出席させて頂き、大歓迎を受けました。また、自分たちが作り上げた資料を、惜しげもなくすべてくださり、懇切丁寧に教えて頂きました。

　秋田に帰ってからは、県の少子化対策の関係者からお話を伺ったり、頂いたデータをもとに検討し、新年度を迎える準備をしました。何しろ初めての事業でもあり、不安だらけでしたが、332-F地区第1リジョン第1ゾーン、第2リジョン第1ゾーン12クラブと、第2リジョン第2ゾーンの4クラブにお声掛けしたところ、7クラブのご賛同を得、当クラブが主催、7クラブ共催で実行委員会を立ち上げ、「Let's Talk Together～いま、この出会いを大切に、そして互いに語ろう～」をテーマにスタートしたのです。
　いちばん心配したのは、やはり参加者募集で、実際、何人の若者が参加してくれるのか非常に不安でした。が、会員と共催7クラブの協力のおかげで、136人（男性61人、女性75人）に参加して頂きました。
　3回の実行委員会を開き、細部にわたり話し合い、決定したのですが、熱い討論を繰り返すうちに意見の食い違いから、なかなか決まらない部分も多々ありました。しかし、実行委員会の方々と今までにない友情が生まれたと感じました。
　当日、実行委員会のスタッフはそれぞれのテーブルを担当し、仲人役に徹しながらもゲームにも参加し大活躍を見せてくれました。参加した方々からもたくさんの異性と会話し、楽しいひと時を過ごすことが出来たと喜んでもらいました。おかげ様で6組のカップルが誕生し、その他の参加者もメール交換などをしており、成果はあったと思っております。後日、テレビ放映もあり、内外から大変な話題を集めることが出来ま

した。

不安だらけでスタートした一大事業でしたが、となみセントラル ライオンズクラブのお力添えや、リジョン・チェアパーソン、ゾーン・チェアパーソンからもご賛同を得、たくさんの方々のご協力の下、すばらしいアクティビティが出来たことに感謝しております。これもライオンの和のおかげと思っております。

最後になりましたが、未来を託すべき地域の若者たちに、より良い家庭を持つためのパートナーとの出会いをサポートすることで、地域の奉仕活動として貢献出来たと確信しております。

岩手・宮城内陸地震被災地を励ます旅

小川　正雄（東京関東）

越（こし）の山里では紅葉（もみじ）の上に雪が降るという幻想的なシーンが見られる季節となった頃、あの山古志村もやっと復興したとの報に接しました。２００４年９月23日の中越地震発生から４年、今年は暖かい冬を迎えられるのだろうとほっとした気持ちになると同時に、大地震とはその復旧にかくも長い歳月を要するものなのだと知らされました。

翻って、岩手・宮城内陸地震発生から半年弱のこの地のことが、大変気にかかっておりました。

さて、私が330・A地区第１リジョン第３ゾーンのゾーン・チェアパーソンを拝命した最初の諮問委員会に、地区アラート委員会から伊賀則夫委員長がお見えになり、風評被害に苦しんでいるこの地域に旅行をするだけでも有意義なアクティビティとなるのではとのお話がありました。私は「自らも楽しみながら人々をお助けすることこそボランティアの本質」と考える我が東京関東ライオンズクラブの思いとも一致すると考え、早速、柿下英男会長に提案しましたところ、11月2日、3日の平泉旅行という形で実現致しました。また、伊賀委員長の東京葵ライオンズクラブはもとより、当ゾーンの東京中央ライオンズクラブでも私の提案にご賛同頂き、震災被災地への旅行例会をされました。

現地では、村上富夫332・B地区キャビネット幹事に宿泊ホテルまでお越し頂いて、震災被害の状況をお聞きすると共に、東京関東ライオンズクラブからささやかなドネーションをさせて頂きました。

芭蕉が詠んだ「つわものどもが夢の跡」の地では、仏の世界を地上に表現したと言われる毛越寺の浄土庭園の池に見事な紅葉が映し出され、連休ということもあり、観光客も多く、風評被害は収まったように見えました。が、甚大な被害を受けた地域では復興もいまだ手つかずとのことでした。

私たちの、そして全国のライオンズ・メンバーの励ましが、長く困難な復旧の道のりで、少しでもお役に立てればとの思いを胸にこの地を後にしました。

夫婦提携

西川　恒彦（静岡県・富士宮）

夫婦提携という言葉をご存じでしょうか。静岡県富士宮市と滋賀県近江八幡市、富士宮ライオンズクラブと近江八幡ライオンズクラブがそれに当たります。昔話を縁に夫婦提携を調印したのです。

昔々、神様たちが集まって国造りの相談をして、日本一高い山を駿河の国に、日本一大きな湖を近江の国に一夜のうちに造ることに決まり、怪力の鬼に任せることになりました。怪力の鬼は日が沈むと早速、近江国の土を掘り、大きなもっこに入れて駿河国に運びました。ところが、最後の一もっこを担ぎ上げた時、一番鶏が鳴いてしまい、鬼は慌てて土を投げ出し逃げてしまいました。その一もっこの土がないため富士山の頂上が平らになりました。それでも神様の望み通り、駿河には日本一高い富士山が出来、土を取った跡には、日本一大きな琵琶湖が出来ました。そして、最後に投げ出してしまった一もっこが近江富士（三上山）になりました。

神様は、頂上が平らになってしまったことを嘆き、琵琶湖の水を富士山に送ることにしました。その水は富士山の頂上に今でも金明水・銀明水と言われる泉となっています。

その後、凸の富士山は夫となり、凹んだ琵琶湖は嫁となり、めでたく夫婦になりました。

全国には、多くの姉妹提携をした都市や団体はありますが、夫婦提携をしたのは他にはないのではないでしょうか？

昭和43年9月に夫婦提携をしてから40年、毎年両市の子どもたちは琵琶湖に富士山にと交流を行い、両クラブはその交流に援助・協力を惜しまず、琵琶湖駅伝・白糸駅伝（富士宮）には代表選手団を送り出し、両クラブはその応援に付き添い楽しい交流を続けています。

エブリデー・ヒーロー

＊ライオンズクラブにまつわる「ちょっといい話」募集中。会員の皆さんだけでなく、会員家族、事務局員などライオンズにかかわる方の投稿を歓迎します。▼800～2千字程度の文章にまとめ「エブリデー・ヒーロー」係へお送りください。送付先は57ページをご覧ください。

"Lions are everyday heros."

イラスト／吉田悦子

「ライオンズの支援あればこそ」

地元の東村商工会青年部では毎年参加者を募って「不法投棄バスターズ」という事業を実施していました。村民や各種団体がなかなか参画してくれない中、毎年、特別な要請もしないのにライオンズクラブは快く参画してくれました。大成功を収め続けているこの事業の成功要因は、ライオンズクラブの公共心によるものが大きいと思います。

今年度クラブ会長を務めていますが、商工会青年部員だった当時、そう実感したものでした。

渡辺義信／福島県・東ライオンズクラブ

「ご近所付き合いも楽し」

富岡ライオンズクラブは独自のクラブ会館を持っています。近隣の皆さんに多少なりともご迷惑をお掛けしていることもあり、昨年の春、お花見を兼ねて住民の皆さんと共にもちつき大会を開きました。ついたおもちは5臼分。あんこ餅、からみ餅、それに焼きそば、トン汁、焼肉等も振る舞い、あんこ餅はパックに入れて近くの30軒にお配りしました。とてもおいしいと大好評！

周辺住民の皆さんと交流を図り、またさまざまな意見交換も出来て、たいへん有意義な集いでした。住民の皆さんからは来年もぜひ参加させてほしいとの声があり、とても楽しいお花見となりました。

中出敏子／群馬県・富岡ライオンズクラブ事務局

「幹事へのエール」

今年度がスタートしてすぐの頃でした。クラブの運営や幹事としての仕事にも不慣れで、また生来の融通の利かない性格のため、いろいろと皆さんにご迷惑をお掛けし、また先輩諸氏からご指導を頂いていました。

ある会合の際にも私の不手際から会議が混乱を来し、自己嫌悪と自信喪失で暗い気分で帰りかけたところ、一人の委員長さんから「ちょっとだけ付き合ってくれませんか？」と声を掛けて頂きました。ついて行ったスナックには若手のクラブ役員や委員の方々が数人待っておられました。そして、こう言って頂きました。

「幹事、お疲れさまです。今日のことはすべて幹事が悪いとは誰も思っていません。幹事がクラブを愛し、情熱を持って仕事に取り組んでおられることは、ここにいる全員が認めています。思い切ってやりたいようにやってください。皆で精いっぱい応援しますから」

クラブの若い会員とは年代の違いもあり、また私は酒もゴルフもしないため、日常的にそれほど親しい付き合いはしていませんでした。それだけに、この心遣いには胸が熱くなりました。そして仕事や趣味や道楽での付き合いはなくとも、クラブ・ライフを真剣に、誇りと情熱を持って過ごす姿はちゃんと見ていてくださるのだということを改めて思いました。

丸山孝志／広島県・福山葦陽ライオンズクラブ

ふるさと探訪

石川県七尾市

荘厳華麗、そして堅牢。能登の地形が生んだ総合芸術品

■文／砂山幹博　写真／田中勝明

地理的条件が決定づけたその意匠

細やかに彫り込まれた雲や唐草、躍動感のある竜には金が箔押しされ、その美しさについ引き込まれてしまう。荘厳、華麗、そして堅牢。七尾仏壇の特徴を挙げるとすれば、この三つの言葉に集約される。

七尾仏壇には、金箔加工や漆塗りなど石川県の優れた工芸技術が駆使されており、まさにこの地の美術文化を現した装飾芸術品だと言える。二重破風屋根の荘厳な宮殿（くうでん）を中心に惜しみなく金箔が使われ、障子戸の緻密で幽玄な趣のある彫刻には輪島塗の流れをくむ漆塗りが施され、気品のある色彩と立体感に満ちた蒔絵には、きらびやかな青貝がたっぷりと使われている。

華麗である上に作りが大きいという点も七尾仏壇の特徴と言えよう。仏壇の大きさを表すのに、「代（だい）」という単位を使用するが、これはもともと仏壇の中に掛ける掛軸の大きさを表す単位である。30代から50代、70代、１００代、１５０代、２００代とあって代数が大きくなるにつれ仏壇も大きくなる。地域によって仏壇の寸法には若干の違いがあるが、50代の仏壇で3尺間用に相当する。能登地方の民家は大きな家が多かったので、仏壇も２００代（６尺間用）という大きなものを注文する人が8割を占めていたという。しかし、最近の住宅は、襖どころか畳すらない家が多い。それに仏壇が大きすぎて家の中に入らないという声も聞く。

「かつての大家族時代とは違い、核家族が主流。だから今売れるのは小型の仏壇です。大きさも七尾仏壇の魅力なのですが」

と話すのは、七尾市内で仏壇店を営む布辰巳（七尾ライオンズクラブ）。大きさの他に布が七尾仏壇の特徴として挙げたのが、他に類を見ない堅牢性である。この頑丈な造りは、能登という独特な地理的状況だからこそ生み出されたものである。

地震がきたら仏壇の前へ行け

大部分を山間部が占める能登は、昔から交通の便が悪い場所であった。

能登半島の中央部に位置する七尾は港町であったため、海上交通が発達していた。七尾市には、全国有数の高級温泉街として知られる和倉温泉があるが、布が子どもの頃には、七尾港と和倉温泉を行き来する汽船が現役だったという。

能登の幹線道路の全線舗装が完成したのは１９７０年に入ってからのことである。それ以前は、完成した華麗で大きな仏壇を陸路で運ぶには相当な苦労を要した。整備された路を行く場合は仏壇を大八車に載せて運べばよいが、道なき道を行くには2人がかりで棒にぶら下げて担いだり、急な坂では1人で背負わなければならなかった。だから七尾仏壇には、状態の悪い道での運搬に耐え得る頑丈さが求められた。

中村藤喜男（七尾ライオンズクラブ）の仏間に据えられた仏壇（写真上）は15年前に購入したもの。２００７年３月に、石川県輪島市沖で発生した能登半島地震でも、びくともしなかったという。

かつては標準的だった200代（180㌢×124㌢×86㌢）の仏壇。昔ながらの広い仏間にしっくりと収まる（撮影協力：ライオン中村藤喜男）

「地震がきたら仏壇の前に行け」。七尾で暮らしていればよく耳にする言葉だというが、七尾仏壇が丈夫であることを示すエピソードである。

頑丈さを支える工夫はいくつかある。まずは、二重鏡板構造であること。鏡板とは、本尊、脇仏の後にはめられる板のことで、他の地域の仏壇はこの部分が板1枚で作られるが、運搬時の強度を考慮して七尾仏壇は鏡板を二重にし、丈夫に仕上げられている。また、木地の主材料には、狂いが少なく耐久性に優れた能登特産の能登アテ（ヒバ）を使用。全国のどの産地の仏壇よりも「ほぞ組み」が多く取り入れられているのも大きな特徴だ。釘を使わず木材同士を組み合わせるほぞ組みによって、構造体としての堅牢性が一層高められている。

正面から仏壇を見ると、左右にある柱が太いのに気付く。このように要所の部材が太く、厚めに使用されているのも七尾仏壇らしさ。だから完成した仏壇は総じて重い。200代の仏壇で150㌔にもなる。

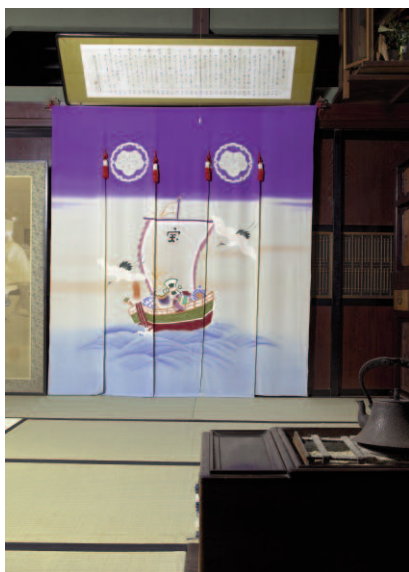
現代に継承された匠の技

堅牢性を高めた構造や、特有の装飾など、七尾仏壇には他の地域には見られない優れた技法や技術が随所に取り入れられている。七尾仏壇は、197

❶向こう側が透けて見える金箔は、厚さ10000分の1ミリ
❷七尾仏壇の金具に施されるのは唐草模様。たがねで一つひとつ手打ちされる
❸2枚の彫刻を重ね合わせることで、複雑で立体的な表現が可能になる
❹1200年の歴史を持つ北陸の名湯・和倉温泉。「湧く浦（わくら）」の名が示す通り海中から発見された

8年に伝統的工芸品に指定されたが、今日まで七尾の伝統産業として継承されてきた理由の一つは、能登の国に多くの顧客がいたためだと考えられている。

能登は加賀と同じく、古くからの真宗王国。農村や漁村に暮らす信仰心の厚い人々によって仏壇産業は支えられてきた。道なき道を通ってでも仏壇を運んだのは、こうした人たちが国中に大勢いたからである。また、七尾は古くから能登の政治、経済、文化の要所だったことから、販路拡大の拠点でもあった。北前船が立ち寄る港があったため、七尾仏壇はここから海路で遠隔地へ運ばれた。1940年頃までに、ニシン漁業で活気のあった北海道へ大量に販売されていた。

また、仏壇の部材を作る専門職人が街に集まっていたことも仏壇産業が発展した理由の一つ。仏壇作りは分業で

●花嫁のれん
七尾や能登でみられる風習で、嫁入りの時に花嫁は「花嫁のれん」と呼ばれる美しい加賀友禅を持参する。花婿の家の仏間の入口に掛けられ、花嫁がのれんをくぐり、先祖のご仏前に座ってお参りをした後に結婚式が始まる。現代では風習やしきたりを重んじる地域や旧家において、祭礼時に欠かせないものとして受け継がれている。

ある。木地師に彫刻師、塗師、蒔絵師、金物師などの職人がすべてそろって初めて1本の仏壇が完成する。

ルーツをたどれば、室町時代に能登国守護の畠山満慶が蒔絵や彫刻などの工芸産業を保護、奨励したことに始まるが、仏壇製造が産業として根付いたのはもう少し後のこと。後に加賀百万石を一代で築く前田利家が1581年、七尾に城を与えられ一国の大名となると、港町は城下町へと姿を変えていった。町割で新たに区画整理された場所には、そこに住む人たちの職業に合わせた町名が付けられた。塗師町通りや木町、大工町といった職人街が江戸初期には既に形成されており、寺社の建築や修復、仏具の製造などを行う中で、いつしか仏壇を手掛けるようになっていった。数々の資料から、七尾仏壇が世に登場したのは、17世紀中頃と考えられており、以来3世紀もの歴史を歩み今日に至っている。

職人さんの仕事場をいくつか訪ね、継承された匠の技を拝見した。

複雑な装飾物を形作る彫物師は、硬くて繊維が細かいイチョウの木に向き合って、300本はあるという彫刻刀の中から最適な1本を選び出し、巧みに操り彫刻に生命を与えるかのような仕事をしていた。蒔絵師は、自ら描いた下絵をもとに仏壇の引き戸に蒔絵を施し、金物師は厚さわずか0・6～1ミリの真鍮に自作したたがねを使って唐草模様を刻み込む。

木工、彫刻、漆工、箔押しといった技術が駆使された装飾品が組み立てられて初めて1本の仏壇が完成する。この匠の技の結集こそ、七尾仏壇が「伝統工芸の集大成」「総合芸術品」と称されるゆえんである。

郷土自慢・クラブ自慢

完全に内海である七尾湾は、まさに天然のいけす。昔から良質なナマコがとれることで知られている。このナマコから作る「このわた」と「くちこ」が七尾ライオンズクラブの郷土自慢。いずれも奈良の都、平城京に献上されたと言われる珍味中の珍味である。三角旗の形をしたくちこは、糸程しかないナマコの卵巣を塩漬けし、何本も重ねて陰干しにしたもの。さっと炙って香ばしい磯の香りと共に頂くのが通。一方、ナマコの腸を塩辛にしたこのわたは、ウニ、カラスミと並ぶ日本三大珍味の一つ。非常に高価な食材であるため、かつては殺菌作用を持つ竹筒の中に入れて保存した。酒飲みにはたまらない酒肴である。

▼七尾ライオンズクラブ（布辰巳会長／56人）＝1968年4月14日結成／スポンサー：加賀ライオンズクラブ

読者プレゼント

七尾の和ろうそくを3人の読者に

「ふるさと探訪」(51ページ)で訪れた石川県七尾市の七尾和ろうそく(2本入り)を、3人の読者にプレゼントします。

七尾和ろうそくは植物性の油を主原料に、芯には和紙と灯芯(イグサの髄)を使って一本ずつ手で巻いて作られています。江戸時代、七尾には「蝋燭座」が設けられ、北前船で四国や九州から運ばれたハゼや石見の和紙を原料として盛んに生産されました。現在は北陸地区でただ一軒、創業117年の高澤ろうそく店が伝統的な和ろうそくの製造を受け継いでいます。重厚な土蔵造りの店舗は国指定登録有形文化財に指定されています。

応募要領：はがきに「和ろうそく」と明記し、住所、氏名、電話番号、クラブ名をご記入の上、ライオン誌プレゼント係あてにご応募ください。本誌ウェブマガジン(www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=0)からも応募出来ます。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は4月末日。応募多数の場合は抽選となります。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

2009年5月号予告

THEME 明日を開く若い力

全国から50歳未満の若手会員が集った「ライオンズ若手会員フォーラム」では、明日のライオンズの姿を描き出そうと「新たなアクティビティの可能性」「豊かなライオンズ・ライフ」の二つのテーマで熱のこもったディスカッションを行った。その模様をリポート。さまざまな分野で活躍する「若手会員の肖像」も掲載。

伝言板

●第4回全国シニアフォーラムが5月12日～13日、兵庫県神戸市で開催されます。全国のシニア・ライオンズクラブが集い、親睦の和を広げる目的で開かれているこのフォーラム、12日は全体会議と懇親会、翌13日はエキスカーションとして観光やゴルフ・コンペが予定されています。詳細は左記へお問い合わせください。

〈問い合わせ先〉実行委員会事務局長：ライオン進藤實(兵庫県・神戸シニアライオンズクラブ)
FAX：077・532・2407
Eメール：ms1712@nike.eonet.ne.jp

●訂正とお詫び

本誌3月号「クラブ・リポート」で41ページ「薬物乱用防止キャンペーン・ジャズコンサート」のタイトル及び記事にあるクラブ名に誤りがありました。正しくは東京堀留ライオンズクラブでした。関係各位に深くお詫びし、訂正致します。

ライオン誌事務所来訪者芳名録

2・5 神奈川県南足柄 桜井 孝一
2・5 山梨県甲府シティ 渡辺 和廣
2・5 神奈川県南足柄 小林美津男
2・5 神奈川県藤沢湘南 矢部 祥榮
2・23 青森県八戸 柏木 豊

ライオン誌投稿要領

▼原稿は誌面の都合で編集したり、掲載出来ない場合があります。原則として原稿の返却は致しません。返却希望の場合はその旨を明記してください。▼電子メールでの写真投稿は長辺1,600ピクセル程度のJPEG最高画質で。▼住所、氏名、クラブ名を明記。

■クラブ・リポート34～44ページ：アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に800字程度で。関連写真があれば添付。

■獅子吼45～49ページ：会員及びその家族によるエッセー、提言など。1,600字程度。職種、年齢を明記。

■エブリデー・ヒーロー50ページ：ライオンズクラブにまつわる「ちょっといい話」をお寄せください。800～2,000字程度で。会員家族、事務局員の投稿も歓迎。

送付先：
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 ライオン誌事務所
Fax：03-3546-2630 E-mail：edit@thelion.jp

編集室

獅子の子落し

ライオン誌
日本語版委員
◉
渡邊豊隆
（東京紀尾井町）

年明けて、故・加藤正見元国際理事が20数年前に記された『獅子の子落し』を読み返した。題名は本来、親獅子が可愛い我が子を千仞の谷に落とし、逞しく這い上がる子獅子を育てるという教育的諺であるが、本書は彼の体験に基づくライオニズムの哲学である。一読をお薦めする。

さて昨年の世相を表す漢字は「変」であった。清水寺の貫主さんもどのような思いで揮毫されたであろうか。100年に一度と言われる世界経済の不況の津波もさることながら、世相の乱れは目に余るものがある。

振り込め詐欺や無差別殺傷が横行し、親が子を、子が親を殺め、薬物汚染はスポーツの世界から最高学府まで蔓延し、年々主婦や若年層にまで拡散しているとのことである。嘆かわしい極みである。

青少年の問題点など、教師も保護者も自らが受けてきた教育、特に徳育の欠如の結果でもあるのか、一に戦後教育の貧困によるものと愚考するのは極論であろうか。

教育は立国の根幹である。我々ライオンズの活動でも青少年に対してYEやライオンズクエストなど、重要な国際プログラムとして世界的に実践されている。また、330・A地区で推進してきたライオンズ・メンバーによる薬物乱用防止認定講師制度も近年行政の認めるところとなって、有志ライオンの活動も年々活発になっていることは喜ばしいことである。

ライオンズクラブの創始者メルビン・ジョーンズも、青少年育成はライオンズ活動の大きな目的としている。青少年の社会教育に奉仕することは、ライオンズクラブのより大きな使命であると確信している。

「獅子の子落し」。

12、3年前、330・A地区の賀詞交換会で某ライオン夫人とその娘さんが日本舞踊「連獅子」を艶やかに舞われたのを思い出している。

Official publication of Lions Clubs International

Published by authority of the Board of Directors in 21 languages - English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Norwegian, Icelandic, Turkish, Greek, Hindi, Polish, Indnesian and Thai.

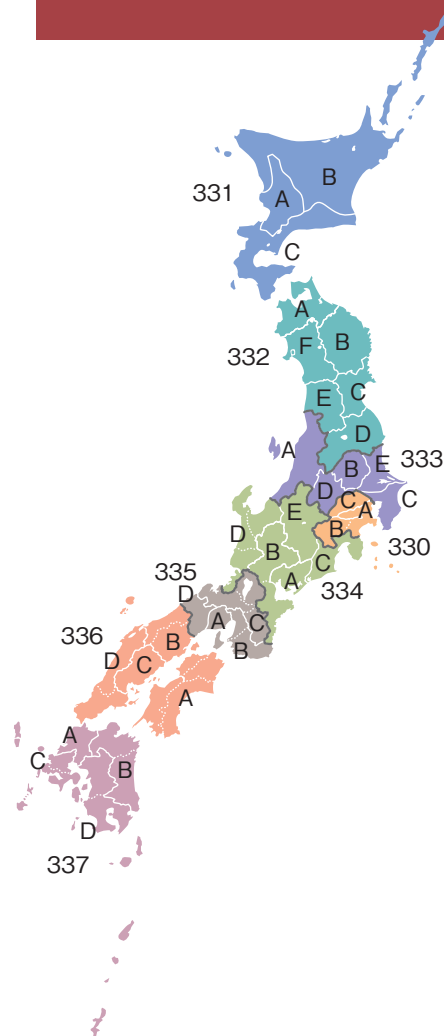
Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571(代)　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

日本のライオンズ

2009.1.31　ServannA報告による

地区	都道府県	■クラブ数	■会員数	期首から の入会	期首から の退会	期首から の増減
330-A	東京	202	5,343	465	271	194
330-B	神奈川・山梨・東京	191	5,272	318	273	45
330-C	埼玉	104	2,793	120	101	19
330	計	497	13,408	903	645	258
331-A	北海道（道央）	77	2,762	182	159	23
331-B	北海道（道北・道東）	91	2,726	95	125	-30
331-C	北海道（道南）	60	1,931	100	119	-19
331	計	228	7,419	377	403	-26
332-A	青森	68	1,924	70	121	-51
332-B	岩手	55	1,929	289	87	202
332-C	宮城	82	1,544	85	98	-13
332-D	福島	77	2,087	113	125	-12
332-E	山形	58	1,911	68	87	-19
332-F	秋田	52	1,374	107	69	38
332	計	392	10,769	732	587	145
333-A	新潟	80	3,008	127	136	-9
333-B	栃木	57	1,433	65	60	5
333-C	千葉	135	3,574	170	199	-29
333-D	群馬	55	2,093	140	94	46
333-E	茨城	81	3,031	97	124	-27
333	計	408	13,139	599	613	-14
334-A	愛知	120	5,806	268	228	40
334-B	岐阜・三重	87	3,960	212	153	59
334-C	静岡	84	3,375	146	139	7
334-D	富山・石川・福井	101	4,300	195	162	33
334-E	長野	53	2,246	104	54	50
334	計	445	19,687	925	736	189
335-A	兵庫（東）	108	2,897	141	140	1
335-B	大阪・和歌山	202	6,624	325	386	-61
335-C	滋賀・京都・奈良	122	4,375	195	186	9
335-D	兵庫（西）	67	2,226	166	79	87
335	計	499	16,122	827	791	36
336-A	徳島・高知・香川・愛媛	156	6,139	289	329	-40
336-B	鳥取・岡山	99	3,515	166	191	-25
336-C	広島	104	3,920	202	189	13
336-D	島根・山口	105	3,480	165	182	-17
336	計	464	17,054	822	891	-69
337-A	福岡・長崎	118	4,785	273	225	48
337-B	大分・宮崎	81	2,568	141	158	-17
337-C	佐賀・長崎	84	3,092	177	201	-24
337-D	熊本・鹿児島・沖縄	144	4,324	254	301	-47
337	計	427	14,769	845	885	-40
総計		3,360	112,367	6,030	5,551	479
世界のライオンズの		7.4%	8.6%			

日本ライオンズクラブ分布図

世界のライオンズ

2009.1.31　国際協会集計

ライオンズ国または領域	205
世界のクラブ数	45,267
世界の会員数	1,313,199
期首からの増減	7,556

国	クラブ数	会員数	期首から の増減
アメリカ	12,777	375,464	-6,215
インド	5,351	167,329	9,882
韓国	1,997	84,319	694

第92回ライオンズクラブ国際大会

2009年7月6日～10日
アメリカ・ミネソタ州ミネアポリス

7月6日(月)	09:00～17:00	展示ホール及び大会サービス・センター
	19:00～21:30	地区ガバナー・エレクト・セミナー祝賀晩餐会
7月7日(火)	09:00～17:00	展示ホール及び大会サービス・センター
	10:00～	インターナショナル・パレード
	15:30～17:00	各種セミナー
	18:30～20:00	インターナショナル・ショー
	20:00～22:00	コネチカット・ティーンエイジ・ダンス
7月8日(水)	09:00～18:00	展示ホール及び大会サービス・センター
	09:30～12:30	第1回総会（開会式）
	13:00～15:00	メルビン・ジョーンズ・フェロー昼食会
	13:30～16:15	各種セミナー
	14:00～16:00	会員キー賞アイスクリームを囲んでの集い
	19:10～	ライオンズナイト（ミネソタ・ツインズ対ニューヨーク・ヤンキース）
7月9日(木)	09:00～17:00	展示ホール及び大会サービス・センター
	09:00～11:30	第2回総会
	13:00～17:00	各種セミナー
	18:30～22:30	“ヒーロー賞”晩餐会
7月10日(金)	07:00～10:00	展示ホール及び大会サービス・センター
	07:00～10:00	投票
	09:30～13:00	第3回総会（閉会式）

http://www.lionsclubs.org/JA/content/news_convention.shtml

ライオン誌4月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価180円　送料実費76円
2009年(平成21年)3月20日発行　毎月1回20日発行　第51巻第10号
発行所　ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所　〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　Tel 03-3542-9571
印刷所　凸版印刷株式会社